

一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **69**
支部だより 2024.10

目次

Vol.69

・ 巻頭言			
地域の生活と産業を支える強靱な県土の実現に向けて… 秋田県 建設部長	川辺	透	1
・ 特集1 スポーツを核としたまちづくり			
スポーツを核としたまちづくり (インタビュー) … 元楽天ゴールデンイーグルス	銀次		2
公園・広場を活用したサッカー場の整備			
…………… ベガルタ仙台クラブコーディネーター	梁	勇基	4
ベガルタ仙台のまちづくりに関する取組みについて (シャレン!)			
…………… ベガルタ仙台クラブコミュニケーター	富田	晋伍	5
八戸駅西まちづくり計画 アリーナを核としたまちづくり			
…………… 八戸市 都市整備部 都市政策課 参事	田鎖	隆	6
・ 私の趣味			
・私はフラガール・ ………………	三井共同建設コンサルタント(株)	新貝	奈美 10
・ 名所旧跡			
国登録有形文化財・旧釜石鉱山事務所ならびに関連施設等の照会			
…………… (株)エイト日本技術開発	澤田	弦一郎	11
・ 話題			
DX技術を用いたダム管理支援システムの開発 「インフラDX」優秀賞 (国土交通省)			
…………… (株)建設技術研究所 東京本社水システム部	三浦	心	13
みちのくインフラDX奨励賞の受賞 ……………… (株)オリエンタルコンサルタンツ	松戸	努	15
令和5年度「みちのくインフラDX奨励賞」を受賞して ……………… 新和設計(株)	齋藤	恵太	16
建設技術公開 EE東北 '24について ……………… (株)ダイエツ	樋口	章大	18
令和6年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 一覧……………			19
・ 技術シリーズ 女性技術者の声			
誰もが働きやすい組織に…………… (株)オリエンタルコンサルタンツ	水出	佳奈	23
社会人3年目を迎えて…………… 大日本ダイヤコンサルタント(株)	石川	里桜	25
・ 技術シリーズ 若手技術者の声			
入社してからを振り返って…………… (株)ドーコン	伊保橋	英太	26
1年間の振り返り…………… (株)建設技術研究所	森本	有祐	27
・ 技術士合格体験記…………… (株)建設技術研究所	井上	智晴	28
…………… (株)片平新日本技研	尾崎	雅恒	29
…………… (株)復建技術コンサルタント	近藤	祐太	30
・ セミナー／発表会報告			
令和6年度 ICT専門委員会「技術講習会」			
…………… 技術部会 ICT専門委員会 (株)復建技術コンサルタント	市川	健	31
第22回 (令和5年度) 高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告			
…………… 総務部会長 (株)長大	長南	憲一	32
・ 新規会員の紹介			
『地域や時代のニーズに応える企業』を目指して			
…………… エイコウコンサルタンツ(株) 代表取締役	山内	一晃	34
櫻エンジニアリングを設立して…………… (株)櫻エンジニアリング 代表取締役	大島	高昭	35
・ 委員会紹介			
技術部会 地盤専門委員会紹介…………… 技術部会 地盤専門委員長	榎原	信夫	37
・ 我ら、建コン若手の会!			
東北支部若手の会の活動を通して感じる成長…………… (株)昭和土木設計	作山	裕貴	38
・ 特集2 能登半島地震			
令和6年能登半島地震における能登町への支援活動			
…………… (株)オリエンタルコンサルタンツ	馬越	正純	39
「令和6年能登半島地震」TEC-FORCE随同行 ……………… (株)ダイエツ	荒	信三	41
…………… 新和設計(株)	飯澤	誠	43
・ 支部活動報告			
令和6年度支部定時総会……………			45
9月2日「災害時対応演習」(リモート)を実施……………			46
令和6年7月の大雨に伴う「災害協定」対応状況について……………			47
コンプライアンス研修会……………			48
・ 支部だより……………			49
・ 令和6年度 講演会のお知らせ……………			53
・ 東北支部 会員名簿……………			54
・ 編集後記 ……………… 広報委員 佐藤 正隆			56



地域の生活と産業を支える強靱な県土の実現に向けて

秋田県 建設部長 川 辺 透

近年、全国各地で気象災害が激甚化・頻発化する中、本県においても、昨年の7月14日から18日にかけて、梅雨前線の停滞により72時間雨量が6つの観測所で史上1位となる記録的な大雨に見舞われ、県都秋田市の中心部を流れる太平川や五城目町の内川川、富津内川などが氾濫したほか、浸水により秋田中央道路など最大38路線61箇所で行き止まりとなるなど、甚大な被害を受けました。

一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様におかれましては、被災直後から、本県との災害協定に基づき、調査・設計等の応急対策業務にご尽力いただいております。厚くお礼申し上げます。

この大雨被害を受け、今年度は「気候変動等に対応した防災力の強化」を県の重点施策に位置づけており、特に水害については、昨年被災した公共土木施設の早期復旧に取り組むとともに、被害が甚大であった秋田市の太平川や五城目町の内川川、富津内川等の整備や、洪水浸水想定区域図の作成を加速化するなど、関係機関と連携しながら、ハード・ソフト一体となった流域治水対策を推進しています。

また、大規模地震時の救急救命活動や復旧支援活動を支えるため、緊急輸送道路上の橋梁耐震補強に取り組んでいるほか、長寿命化計画に基づき、橋梁やダム、下水道など各種インフラ施設について、補修・更新を実施するなど「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づく施策も着実に進めています。

一方、こうした災害リスクへの対策だけでなく、人口減少やカーボンニュートラルの実現といった課題への対応も求められています。

このため、本県では全国に先駆けて、複数市町村の下水汚泥を集約し、資源化する施設を整備したほか、下水汚泥から発生する消化ガスによる発電や、太陽光発電、風力発電を組み合わせ、周辺の公共施設に再エ

ネ電力を供給する「秋田臨海処理センターリノベーション計画」を進めています。

加えて、生活排水処理事業に携わる技術職員の減少や施設の老朽化、使用料収入の減収などの課題に対応するため、県・市町村の事務を補完する官民出資会社「ONE・AQITA」を令和5年11月に設立し、官民が有するノウハウを結集して経営課題や技術的課題等に対応する体制を整えています。

また、本県沖の4つの海域は、海洋再生エネルギー発電設備整備促進区域に指定されており、さらに今年6月には本県南部沖が浮体式洋上風力発電実証事業の実施海域に選定されるなど、カーボンニュートラルへの貢献や関連産業への経済波及効果も期待されていることから、洋上風力発電の導入が確実かつ迅速に進むよう港湾の整備等を推進してまいります。

このように、地域の建設産業に求められる役割は多様化しておりますが、「担い手の確保」や「就業環境の改善」、「生産性・技術力・品質の向上」など様々な課題を抱えています。

これらの課題に対応するため、本県では「建設産業活性化センター」を設置し、高校生と企業とのマッチングやイメージアップイベントの開催、建設産業女性ネットワークによる交流会の開催などに取り組んでいるほか、入札契約制度においては、債務負担行為や繰越の活用による履行時期の平準化やウィークリースタンスの徹底など働き方改革への対応、総合評価落札方式における担い手確保・育成や賃金水準の向上に向けた取組を評価するなど、建設産業を後押ししていく取組も引き続き進めてまいります。

社会資本の整備や維持管理等を着実に実施するためには、高度な知識と技術により事業執行を支援する建設コンサルタンツの皆様の存在が不可欠です。引き続き建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

スポーツを核としたまちづくり（インタビュー）

元楽天ゴールデンイーグルス 銀 次



元楽天ゴールデンイーグルスの銀次様から、現役当時のお話や、これからどのような活動をしていくのか、加えて人づくりやまちづくりについてお話を頂きました。

記者：昨年現役を引退されましたね。お疲れさまでした。早速ですが、これまでのプロ野球人生、プロの世界で感じたことを教えてくださいませんか？

銀次：沢山の応援をいただき有難うございました。プロの世界ですか、まあ厳しい世界ですね。タフじゃないとやっていけないところが凄くあります。

例えば言うと、一年間143試合ある訳で1週間の内に毎日試合があり加えて移動が入ってくる。その移動も新幹線移動であったり飛行機の移動であったり、移動して夜に試合して次の日にはデーゲームが続くなど、タフじゃなきゃ続きませんね。

すごく厳しく大変だなんていうのはありました。その中で相手と戦うのは勿論ですが、自分との戦いでもあります。人間は楽な方向に流されますので、疲れたら個人練習したくないとか、その様な中で結果を残すというのは、並大抵ではな

い世界だと感じました。

記者：そのような状況でも多くの輝かしい結果を残されてこれでしたが、原動力はなんでしょう？

銀次：そうですね、一言で言ったら、コツコツとひとつひとつやってきたっていうのが自分の中ではありました。何故コツコツ出来たのかなって考えますとやっぱり東日本大震災ですかね。

震災が起きた時、私は23~24歳ぐらいの若手でしたけど、東北出身だったのでやっぱり先頭に立ってこのチームを引っ張っていかないといけないっていうふうなことはこの震災が起きてからずっと思ってたっていう自負はあります。

記者：あの時イーグルスは遠征でしたよね。

銀次：そうです。自分は兵庫県の明石にいました。オープン戦中だったので、そこで東北で大きい地震があったことを知りました。試合は中止になり、とりあえず親に電話して、たまたま繋がり無事が確認できました。その時の東北の状況は分からなかったですが、東北の多くの方々の思い無事を祈っていました。

記者：その後球団の皆さんと被災地に赴かれましたが、その時に何を思いましたか？

銀次：自分は女川の方に行きました。その時は何もしてあげられなかったですが、被災地の方々はプロ野球選手が来たとき笑顔を見せてくれました。その時に、自分たちはやっぱり野球しかできないのだから、野球でみんなを元気にさせよう。笑顔にさせようって気持ちになりました。被災地に行ったら本当に良かったって思いますし、あの景色を見たからこれまで頑張れました。俺たちがやらなきゃいけないっていうのはみんな感じたと思います。

記者：その後一生懸命頑張って日本一になりましたね。

銀次：2013年、2年後でしたけど、震災から日本一になったっていうのは、これ以上ない嬉しさというか、幸せというか、少しだけ東北被災地に元気を与えられたのかなと思いました。

自分にとっては一番嬉しいことだったのですが、それで終わりじゃなくて、自分はそれからずっと打席に入るときは、魂を込めて打席入っていま

した。ずっと被災地のことを思いながら、今は現役を引退しましたが、どうやってみんなを笑顔にして、どうしたらみんなを楽しませられるのかなっていうのをずっと考えながらやっています。

記者：多くの被災地を訪問されてきたと思いますが、印象深いこととかあれば教えてください。

銀次：自分のことを知ってくれて頂いているのは、とても嬉しくて、「来てくれてありがとうね、また来てね」と温かく受け入れてくれるのはとても嬉しかったですね。現役中は勿論ですけど、今でも家族全員で沿岸を回っています。やっぱり自分が行く事に何か意味があるし、来て良かったなって思いまた来なきゃいけないって思っています。

そんな沿岸被災地からの選手といえば、朗希じゃないですか。自分もすごく応援している選手で、まあ日本で活躍して勿論、海外にも行って欲しいと思います。

これからも被災地からプロ野球選手が出て活躍し、次のレベル、最高峰のメジャーリーグに行けば、被災地の皆が盛り上がるじゃないですか。

そのような事を目指して今動いています。

記者：なるほど、それでは銀次さんが考えるまちづくりや、人づくりのお話をいただけませんか。

銀次：被災地を回っていろいろな場所に行きますが、特に岩手県や宮城県の沿岸には、室内練習場が圧倒的に足りないですね。グラウンドはありますが室内練習場がなかなかありません。そのような問題が見えてきたっていうのはあります。今野球人口が減っている中では環境整備が大事になってくるのかなって自分は思います。

もっとレベルを上げるためには、野球ができる施設等で野球ができる環境ですね。そういうのを自分も作って欲しいなっていうのがありますね。

人づくりにしても、先ほど話したように、震災を経験した人が出てきてほしいという願望もあります。多分、今の子供たちは震災を経験していませんが、震災があった沿岸の子供たちのレベルは高いので、プロを目指して欲しいと思います。その子供たちがプロになればその地域がとても盛り上がり、みんなで応援するので街や人が元気になり、笑顔になると自分は思います。

記者：これまでスタジアムに通いながらお仕事をしてくられたと思いますが、スタジアムを中心とした街にどのような感想をお持ちですか？

銀次：お客様は街を見ながら歩いて来てくださる方が多いかと思います。球場までの導線や建物、コミュニティ等、そういったものも実は球場を

ベースとして、少しずつ広がってきているっていう感じもしますね。

そのような意味でもスポーツは重要だと思っています。



記者：楽天モバイルパークも良いですよ。

銀次：そうですね。何といたってもパークと言われるように遊園地があるのは、子供が行きたくなる場所ですよ。野球に興味は無いけど、遊園地で観覧車に乗って外を眺めたりしているうちに野球に興味を抱いてもらえるかもしれません。アメリカの球場には、遊園地が至る所にありますし、野球を目当てに来るだけではなく、美味しいディナーを提供する球場やサーカスやショーを開催している球場もあります。

単なる野球場という場所だけではなく、様々な目的を満たしてくれる場所になっています。

これからは、スポーツを観戦するだけではなくスポーツを通した様々なアクティビティーや様々な施設と連携したまちづくり、そして人づくりが求められているのではないのでしょうか。

記者：本日は貴重なお時間を頂きありがとうございます。これからも、東北の未来を担う子供たちに沢山の希望を与え続けて下さい。

銀次：こちらこそありがとうございます。少しでも東北の力になるよう頑張っ参ります。



公園・広場を活用したサッカー場の整備

ベガルタ仙台クラブコーディネーター 梁 勇 基

ベガルタ仙台クラブコーディネーターの梁勇基です。ベガルタ仙台で18年間プレーし、2023シーズンをもって現役を引退しました。現在は、クラブコーディネーターとして、宮城県内の各地でサッカー教室に参加したり、学校や企業で講話を行ったりし、選手としての経験を伝える活動をしています。

私は、現代社会の大きな課題として、子どもたちの運動不足や体力低下があるのではないかと考えています。その原因として、外で遊ぶ場所が年々減少していることや、スマートフォンの普及により室内で遊ぶ機会が増加していることが挙げられると感じています。私自身、4人の息子を育てていますが、私たちが幼い頃とは異なり、今の子どもたちは思いっきり体を動かし、スポーツを楽しめる環境が減っていると強く感じています。

スポーツには、人を育て、地域を活性化させる力があります。サッカーを通じて、宮城や地域を盛り上げることができるはずです。その一つの手段として、ベ

ガルタ仙台のホームスタジアムである「ユアテックスタジアム仙台」の脇にある七北田公園に、いつでも誰でも利用できるサッカー場や、サッカーができる設備が整備されることが理想だと考えています。

ベガルタ仙台では、年間で100回以上のサッカー教室を実施しており、今年7月には七北田公園でサッカー教室を行いました。こうしたサッカーができる設備がない環境でも、サッカー教室を開催し、子どもたちがスポーツにふれあえる場を作ることが、われわれベガルタ仙台の使命だと考えています。

ユアテックスタジアム仙台を眺めながら、子どもからお年寄りまでサッカーを楽しめる環境が整うことで、健康促進につながり、ひいては町の活性化にも寄与するのではないかと思います。サッカーに育てられ、スポーツの素晴らしさ、サッカーの素晴らしさを実感している者として、そのような環境や設備が整備され、地域全体が子どもたちの元気で溢れる姿を、多く見られることを願っています。



写真1：今年7月に七北田公園で実施したサッカー教室の様子①



写真2：今年7月に七北田公園で実施したサッカー教室の様子②



ベガルタ仙台のまちづくりに関する取組みについて (シャレン！)

ベガルタ仙台クラブコミュニケーター 富田 晋伍

ベガルタ仙台の富田晋伍です。普段は、クラブコミュニケーターという、クラブと地域の橋渡し役として、宮城県各地で活動をしています。

ベガルタ仙台では、「シャレン！」(※社会連携活動の略称)を各地で実施しています。シャレンを簡単に説明すると、クラブの「チカラ」を活用し、地域の社会課題に対して自治体などと取り組む活動を言います。ここで言うクラブの「チカラ」とは、選手やマスコットなど、クラブの顔となるコンテンツ(もちろん私もですが)や、クラブを応援してくれる協賛企業様の力、クラブの持つメディア発信力を指し、このチカラを地域の社会課題解決に使おうという取り組みです。つまり、「シャレン！」で行う活動は、地域課題の解決に取り組むものであり、それは同時に地域の活性化や街の賑わいを作る活動となっているのです。例えば、ベガルタ仙台では、宮城県七ヶ宿町にてシャレン！の活動を行なっています。

七ヶ宿町の地域課題は、「少子高齢化」「交流人口の拡大」「増える一方の空き家・空き地」です。

この地域課題に対し、空き家を改修し(空き家・空き地対策)、そこで町外から沢山の人が集まるようなイベントを実施し(交流人口の拡大)、町に興味を持ってくれた若い方が移住定住につながれば(少子高齢化対策)と仮説を立て、ベガルタハウスと名付けた活動拠点を作りました。ベガルタハウスの改修には、サポーターの手を借りて一緒に改修作業もしました。そして完成したベガルタハウスには、協賛企業様から格安で電化製品を提供していただいたり、まちづくりに関するノウハウを地域の若者に提供してもらったりと、ベガルタのチカラを存分に活かしてきました。この活動は、地元のメディアの目にもとまり、多くの露出も生まれています。このように、このシャレン！活動は、町にとって、まちづくりに大いに役に立っている活動なのです。

今後は、この活動を各地に広げ、地域をどう盛り上げて行くかのお手伝いをしたいと考えています。

これからもベガルタ仙台は、地域と共に歩む企業として地域とともに、まちづくりに関わっていきます。



写真1：ベガルタハウス



写真2：七ヶ宿町にてシャレン！活動



八戸駅西まちづくり計画 アリーナを核としたまちづくり

八戸市 都市整備部 都市政策課 参事 田 鎖 隆

はじめに

八戸市は、東北新幹線八戸駅西地区において、スマート・スポーツシティと名付けたまちづくり計画を定め、アリーナを核としたまちづくりを行っています。しかしこの計画は、八戸市全域でのスポーツ政策やスポーツ界からの要請というより、土地地区画整理事業施行地区におけるエリアマネジメントの必要性から生まれました。以下に、この計画の位置づけや現状について整理します。

1. 八戸市の概況



図・八戸市の位置

八戸市は、太平洋に臨む青森県の南東部に位置し、臨海部には大規模な港湾が整備され、その背後には工業地帯が形成されています。平成29年に中核市の指定を受け、地域の経済や住民生活を支える東北有数の都市として発展を続けています。

八戸市の人口：
216,032人(令和6年7月末現在)
八戸市の面積：
305.56平方キロメートル

2. 八戸の特色（氷都）とプロスポーツチーム

八戸市は、日本の北部に位置しながら、日照時間が長く、雪が少ないことから、古くからスケートが盛んに行われており、市民の生活に密着したスポーツとして、親しまれてきました。

平成27年度からは、市の風土に根差したスポーツであるスケートに親しむ環境を醸成しながら、競技人

口の増加と競技力の向上を図ることを目的に、氷都八戸パワーアッププロジェクトに取り組んでおり、400mダブルトラック等を有するYSアリーナ八戸やアイスホッケーリンクを活用し、競技人口は増加傾向にあります。

また、本市のプロスポーツチームを概観すると、東北フリーブレイズ（アイスホッケー）、ヴァンラーレ八戸FC（サッカー）、青森ワッツ（バスケットボール）、八戸ダイム（3人制バスケットボール）といったチームが八戸市を拠点として活躍しています。

3. 八戸駅西土地地区画整理事業

「コンパクト&ネットワークの都市構造」を目指す八戸市では、中心市街地のある拠点から西方約5kmに位置する八戸駅周辺地区を広域機能拠点に位置づけ、恵まれた立地条件を活かした本市の顔となるまちづくりを行うため、約97haの区域において平成9年12月から土地地区画整理事業を実施しています。



図・八戸駅西地区の位置

ここでは、駅前広場や幅員40m、延長約180mのシンボルロードを配し、その突き当りには集客施設を誘致するため約15,000㎡の大規模保留地を配しました。



図・八戸駅西地区画整理の設計



上図：平成31年3月
まちづくり計画より
イメージパース



左写真：
FLAT HACHINOHE

4. FLAT HACHINOHEの構想から実現まで

平成20年代後半に八戸駅西地区では、どのような集客施設を誘致すべきか課題となり、福島県郡山市に本社を置くゼビオホールディングス株式会社の子会社であるクロススポーツマーケティング株式会社（以下、XSM社）による新たなアリーナ整備という話について検討が進められました。

このような経緯を経て、平成29年12月にFLAT HACHINOHEと称することとなる多目的アリーナの整備について、八戸市とXSM社による発表となりました。

■合意に至った事業スキームの概要

- ・市が駅西地区にて用地を取得し、XSM社に無償貸付（30年間）
- ・XSM社が、同地に施設を建設（同社負担）
- ・市が一定時間（年間2,500時間）を同社から借り上げ（30年間）
- ・市が借り上げた時間は、地元住民に貸し出す等多目的に利用（有料）
- ・市が借り上げた時間以外は、XSM社が興行等に貸し出さず自主事業を行う
- ・市は内閣府の地方創生推進交付金を活用し、多目的アリーナ設備導入補助金を交付する

5. 八戸駅西まちづくり計画スマート・スポーツシティ

八戸市とXSM社がアリーナ整備の合意に至った結果を受け、平成30年度に八戸市は駅西地区でアリーナ周辺のまちづくりについて検討し、株式会社日本政策投資銀行の登録商標となっているスマート・ベニユーの考え方を取り入れ、アリーナが「周辺のエリアマネジメントを含む、複合的な機能を組み合わせたサステイナブルな交流施設」となるように位置づけ

た、まちづくり計画をとりまとめました。

この計画の名称は「東北新幹線八戸駅西地区スマート・スポーツシティ」としました。

6. アリーナを核とし

各種スポーツインフラと連携したまちづくり

八戸市のスポーツ競技人口を見ると、バスケットボール、サッカー、バレーボール、野球などが多くなっていますが、駅西地区では、どちらかと言うとこれらのメジャースポーツ以外の氷都八戸ならではのスケートのほか、新たな分野のスポーツが多くなっているため、既存の拠点との機能分担が図られる状況となっています。

(1) アイスホッケー

東北フリーブレイズは、XSM社の子会社である東北アイスホッケークラブ株式会社が運営を行っており、八戸市民にとって馴染み深く、愛されるチームになっています。

XSM社では、東北フリーブレイズがホームリンクとしているFLAT HACHINOHEについて、プロ専用ではなく、一般の方々やアマチュア大会にも活用できる施設として多目的に利用できるアリーナになることを願っているとのことであり、東北フリーブレイズの選手は地域の方々との交流にも力を入れています。

このような取り組みは、八戸駅周辺のまちづくりにも大きな影響を与えています。



写真・東北フリーブレイズ（コラージュ）

(2) 3人制バスケットボール

HACHINOHE DIME（八戸ダイム）は「八戸から世界へ！」をスローガンとして活動する3人制バスケットボール「3×3（スリー・エックス・スリー）」のプロチームであり、青森県八戸市をホームタウンとしています。



写真・駅前交通広場での3×3バスケットボールの試合

令和元年8月17日、FLAT HACHINOHEが建設中であった八戸駅西地区の駅前交通広場において、スポーツによるまちづくりを推進するため、3人制バスケットボールのトップリーグ（EXE PREMIER）の大会を実施しました。

HACHINOHE DIMEは初のホーム戦で準優勝を飾り、その後、FLAT HACHINOHEでの公式戦での活躍とともに、まちづくりにも弾みをつける好成績を残しています。

(3) トランポリンパーク

令和6年5月5日にシンボルロード沿線に、東北

最大級のトランポリンパークを備えた複合商業施設「AILERON WEST VILLAGE（エルロンウエストビレッジ）」がオープンしました。

エルロンの名前の由来は補助翼から来ているとのことで、文字どおりAILERON WEST VILLAGEは、八戸駅周辺地区のまちづくりを支えています。

この施設を建設した、八戸市内で発電プラントのメンテナンス等を行う北辰工業株式会社の田島理成社長は次のようにコメントしています。



写真・AILERON WEST VILLAGE（外観）



写真・AILERON WEST VILLAGE（内観）

『八戸市でも人口が減る中、駅西地区だけは住民数が増えています。そこに可能性を感じ、地区住民としてもシンボルロード沿線で、まちづくりに貢献したい。ちょうど社内でも「市民に喜ばれる事業にチャレンジしたい」と模索していた時期と重なり、「待っているのはダメだ、自分が動かない」と思い、この場所にトランポリンパークを建設することに決めました。しかし、トランポリンパークを建設すること自体が目的ではなく、つくりたいのはワクワクする未来です。』

(4) フィットネスクラブ

令和5年度に八戸市が駅前の保留地（約5,500㎡）

の売却先をプロポーザル方式で公募した結果、市内のトヨタカローラ八戸株式会社、フィットネスクラブを中心とした、まちづくり計画の実現に寄与する提案を行い、審査の結果選定されました。

7. 八戸駅かいわいで盛り上がり隊の活動

上述した紹介は、主に企業活動や開発、プロスポーツに関連する話題でしたが、八戸駅周辺地区では地域住民ら有志による任意の活動団体として「八戸駅かいわいで盛り上がり隊」が令和2年7月に結成され（結成時の名称は「八戸駅西地区で盛り上がり隊」）、地元ならではの各種のソフト事業に取り組んでいます。

活動当初は、FLAT HACHINOHEで定期的にラジオ体操を実施するなど、まさに自分たちでできる活動を実施してきましたが、徐々に大きなイベントにも取り組んでいます。

令和5年9月30日には、地元企画としては初めてシンボルロードを歩行者天国にした8フェス（主催者は上長地区町内連合会）の主な担い手となり、令和6年5月5日には前述したAILERON WEST VILLAGEのオープンに合わせ第2回8フェスを主催するなどの活躍をしています。

八戸駅かいわいで盛り上がり隊の活動は、基本的には地元根差した活動ですが、FLAT HACHINOHE



写真・シンボルロードでサバイバルゲームを行う様子
(熊谷雄一市長も参加(写真中央))

におけるフィギュアスケートやe-sportsの活動展開と相まって、これまでの八戸にない新たな分野のスポーツシーンを提供する結果を残しています。

8. まちづくり準備協議会

シンボルロードの沿線には6者の地権者がおり、これにXSM社を加えた7者で、継続的なエリアマネジメント体制の構築に向けた話し合いを行うことを目的として、令和4年4月に、まちづくり準備協議会が設立されています。今後は、前述した「八戸駅かいわいで盛り上がり隊」などとの役割分担を確認しながら、しっかりした体制構築が期待される状況となっています。

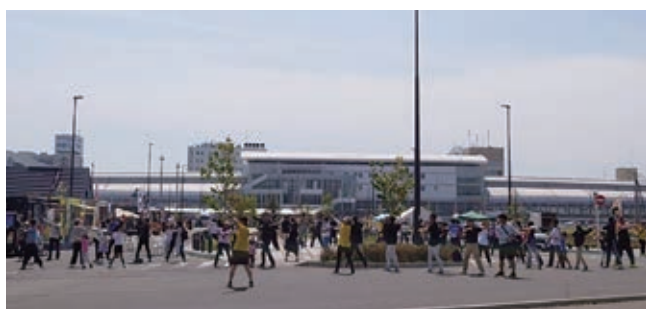
9. 今後の展開

次の様な内容をつうじて、スポーツ・エンターテインメントの新たな魅力づくりを含めた、発展的なまちづくりに向けた検討を継続して参ります。

- ①シンボルロードでの歩行者天国等を自律的に実施できる都市再生推進法人等の立ち上げを目指す。
- ②FLAT HACHINOHEや隣接する広場、駅前広場等におけるソフト事業を支援し、賑わい創出を図る。
- ③駅東口など西地区に留まらない八戸駅周辺地区としてのエリアマネジメントの実施を目指す。

おわりに

エリアマネジメントやアリーナを核としたまちづくりの推進については、地域住民の皆さま、それぞれの競技のプレーヤーやファンの皆さまをはじめとした、多様な来街者の皆さまから理解や支援をいただくことで真価を発揮します。市としても、新たな魅力の発信に資する情報共有や活動の場の提供などソフト事業でも、できることを実施して参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



写真・シンボルロードでラジオ体操を行う様子
(本ページの写真は全て令和6年5月5日撮影)



写真・シンボルロードで3×3バスケットを行う様子

・私はフラガール・

三井共同建設コンサルタント株式会社 新 貝 奈 美

1. きっかけ

TVでカヒコ（古典フラ）を見て「カッコイイ！」と思ったのがフラに興味を持ったきっかけです。調べてみたものの近くに教室がなかったので、そのまま放置。その間、日本ではフラが流行ったり、落ち着いたたりを繰り返していましたが5年以上経過して、やっと教室を発見。私はフラガールになりました。

フラを習って15年以上、習った曲は50曲を越えましたが、フラは奥が深く、私の興味も尽きることなく現在に至ります。

2. フラとは

日本では“フラダンス”と言われていますが、“フラ”はハワイ語で「踊る」という意味があるので……実は「ダンス・ダンス」と言っていることに。ハワイでは「フラ」と呼ばれています。また、「フラを習っている」と言うと「ココナッツつけるの？ 腰を振るやつだよ」と言われることが多いのですが、フラは『ムウムウ』というワンピースや『パウ』というスカートを着て踊るので、わりと布は多めです（笑）腰を振る……というよりは、体重を振り子のように移動しながら踊っています。

フラの起源は文字を持っていなかったハワイの人々が神への信仰、家族のこと、ハワイの自然の美しさを伝えるための手段としてフラが始まった……とか、諸説ありますが家系図を歌った曲やハワイの風景を歌った曲、祈りをささげる曲があります。八百万の神々がいる日本と似ていて、火山の女神ペレはとても有名です。

大航海時代、クック船長がハワイ諸島を発見。その後、宣教師により「自然崇拜を意味しているフラは野蛮でみだらなもの」と言われ、約50年もの間ハワイ語を話すことも、踊ることも禁止されました。しかしハワイの人々は家の中で、洞窟の中で、そして森の中

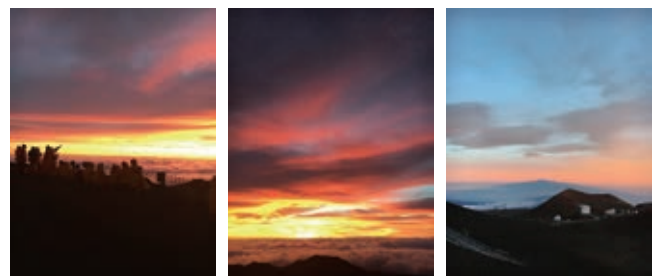
でと人目につかないところで、親から子へ、子から孫へとフラを継承していたのです。1883年ハワイ王国の第7代カラカウア王が戴冠式でフラを復活させました。これより以前のフラをカヒコ（古典フラ）と呼び、現代に続くまでのフラをアウアナ（現代フラ）と呼んでいます。真顔で踊るのがカヒコで、笑顔で踊るのがアウアナなのでダンサーの表情を見たら、どちらのフラか分かると思います。

3. フラと私

フラは姿勢が良くなる、腰痛が治る、腰が曲がらない、などと言われますが、パソコンでデータ入力をしていて時「姿勢がいいね！」と言われてビックリしたことが……私の生活中にフラが浸透していると嬉しくなりました。

大人になって、先生と呼べる人がいて、新しいことに挑戦できて幸せです。給湯室で踊ったり、通勤中に振りの確認をしたり、たまにおかしなことをしてしまいますが、「今日はレッスンがあるから効率よく仕事をしなくちゃ」「イベントに出るから練習しなくちゃ」「ハワイの先生と話したいから英語を勉強しよう」と私の生活に彩りを添えてくれます。

私の教室には92歳の生徒がいます。その先輩を見習って、私もフラを続けていきたいと思っています。フラは私の働く原動力です。感染症や円安でハワイに行けなかったのも、早くハワイに行きたいな～、と思っています。



写真：ハワイ島マウナケアから見たサンライズと地球の影

国登録有形文化財・旧釜石鉱山事務所ならびに関連施設等の紹介

株式会社エイト日本技術開発 澤田 弦一郎

1. はじめに

今回は、岩手県釜石市にある国登録有形文化財の「旧釜石鉱山事務所」とそれに関連する施設等をご紹介します。ちなみに、釜石市は私の生まれ故郷であり、本筋とは脱線する部分もありますが、ご容赦ください。

釜石市は、岩手県の沿岸南部に位置する小規模な都市です。市の西部には、良質な鉄鉱石が採掘される「釜石鉱山」があることや、世界三大漁場のひとつである三陸沖に面することから、江戸時代後半から明治・大正・昭和にかけ、「鉄と魚の町」として発展してきました。

安政4年（1857年）、旧盛岡藩士である大島高任により、大橋地区に近代的な洋式高炉が築かれ、鉄鉱石を原料とした鉄の生産に日本で初めて成功しました。これにより、釜石市は我が国の近代製鉄業発祥の地となりました。

さて、前置きが長くなりましたが、旧釜石鉱山事務所は、JR釜石線陸中大橋駅より、北西に750m程度離れた場所に位置しています。事務所の周辺は「仙人峠」と呼ばれる急峻な山地となっており、新緑や紅葉の時期には、色づいた山々が美しい姿を見せてくれます。以下、事務所内についてご紹介いたします。



写真1：旧釜石鉱山事務所

2. 旧釜石鉱山事務所内の展示物について

旧釜石鉱山事務所の1階は、鉱山が活発に稼働していた昭和30年台の事務所内を再現したものとなっています。現代ではまず使われることのない、手回し式のタイガー計算機やタイプライターなどが展示してあ

り、ご年配の方でしたら懐かしく感じるのではないのでしょうか。

2階には、実際に釜石鉱山で採掘された鉄鉱石が多数展示されており、「鉄のまち」を象徴する鉄鉱石（磁鉄鉱、赤鉄鉱、餅鉄等）のサンプルを見ることができます。また、フォッサマグナ（日本列島中央の地溝帯）を発見したことで有名な、ドイツ人地質学者のナウマン博士が作成した、東北地方の予察地質図についても見学することができます。

これらの事務所内部は、実はデジタルアーカイブ化されています（釜石鉱山デジタルアーカイブ）。インターネットが使用可能な環境であれば、バーチャルツアーにより、誰でも気軽に事務所内部の様子を閲覧することができるようになっています。その他にもデジタルアーカイブでは、先に述べたナウマン博士が作成した予察地質図を閲覧できますし、釜石鉱山坑道内部のバーチャルツアーも可能です。まずデジタルアーカイブを見ていただいて、興味が湧いたら実際に足を運んでいただくのが良いかと思います。

事務所の外周には、当時の選鉱場跡や、病院、学校、鉱員やその家族が暮らしていた社宅などの跡地が残存しています。これらの建屋自体は解体されていますが、現在も基礎部分が残っています。言い過ぎかもしれませんが、切り立った斜面上に残存する基礎跡は、ペルーのマチュピチュに似ていると勝手に思っています。こういった遺構が好きの方には、お勧めできます。



写真2：旧釜石鉱山 選鉱場跡

3. 関連施設・グルメなど

3.1. 橋野鉄鉱山

釜石市橋野町に位置する橋野鉄鉱山は、鉄鉱石の採掘場跡と運搬路、高炉跡を総称したもので、平成25年（2017年）に国際連合教育科学文化機関（UNESCO）の世界文化遺産に登録されました。現存する高炉跡としては国内最古のもので、歴史的・文化的価値の高いものとなっています。日本の製鉄史を語る上で、重要な施設です。

周辺は自然豊かな環境で桜の名所にもなっていて、高炉跡を眺めながらのんびり散歩するのがお勧めです。

なお、こちらもデジタルアーカイブ化されており、インターネット上でも雰囲気を知ることができますので、ここではあえて写真は掲載しません。

3.2. 鉄の歴史館

釜石市の大平町には、「鉄の歴史館」という施設があります。全高48.5mにおよぶ釜石大観音を望む海沿いの小高い丘の上にあるこの施設では、前述した大島高任の偉業や、釜石における製鉄の歴史を学ぶことができます。館内には原寸大に復元された橋野高炉の模型があり、音・光・映像の演出によって、釜石の鉄の歴史が説明されています。釜石に来たら、まずこの施設に足を運ぶのが良いかもしれません。釜石駅や市の中心街からほど近い場所にあり、旧釜石鉄山事務所や橋野鉄鉱山よりはアクセスしやすいかと思います。



写真3：鉄の歴史館

3.3. 釜石ラーメン

話は脱線しますが、釜石のグルメとして、「釜石ラーメン」というものがあります。釜石ラーメンは、細い縮れ麺と琥珀色に透き通った醤油ベースのスープが特徴です。細麺は茹で上がる時間が短いため、注文から提供までの時間が早いというメリットがあります。かつての釜石製鉄所において、交代制により働く

労働者が、出勤・退勤の際に手早く食べられるように確立したラーメンと言われています。釜石鉄山の稼働に伴う製鉄業の発展とともに、釜石独自に発展したラーメン文化、それが釜石ラーメンといえるのではないのでしょうか。あっさりして食べやすいので、個人的には、お酒を飲んだ後の締めとして食べると美味しく感じます。市内の様々な飲食店で提供されており、お店によって若干味が違うので、食べ比べてみるのもいいかもしれません。



写真4：釜石ラーメン

4. おわりに

今回、旧釜石鉄山事務所やその関連施設等についてご紹介させていただきました。従来、岩手県の沿岸部は交通の便があまり良くない環境ではありましたが、東北横断自動車道釜石秋田線（釜石～花巻）や三陸自動車道の全区間開通により、県内外からの自動車によるアクセス性が格段に向上しました。これを機会に、ぜひ「鉄と魚の町」に足を運んでいただき、我が国の鉄の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

DX 技術を用いたダム管理支援システムの開発 「インフラ DX」優秀賞（国土交通省）

株式会社建設技術研究所 三 浦 心

1. DX 技術を用いたダム管理支援システムの概要

本業務は、利根川上流ダム群を対象に、ダム管理の更なる高度化・効率化に向けたDXの取り組みの一つとして、AIやクラウドを活用したダム管理支援システムを構築した。従来、熟練したダム管理者の高度な判断で運用されてきたダムの統合運用操作について、AIにより操作判断に必要な情報をタイムリーに提供することで、更なるダム管理の高度化を目指すものである。

2. システムの特徴

(1) AI 技術を用いたダム運用高度化支援

▶高水分野において、AIを用いた流出予測モデルを構築し、ダムや河川地点の流量や水位を予測する。また、AI強化学習により大規模な洪水が予測された際に、洪水時の特別防災操作（ダムからの放流量を低減する操作）等を提案し、統合運用でのダム操作の判断を支援する（図1）。

▶低水分野において、AIを用いた基準地点の流況予測により、統合運用での流況予測を可能とした。また、AI強化学習により、基準地点の流量を確保するために上流8ダムからの放流量を提案し、ダム管理者の判断を支援する機能を設けた（図2）。

(2) クラウドサービスを用いた情報配信

利根川上流域では国土交通省の管理するダムだけでなく、独立行政法人水資源機構、群馬県や東京電力や群馬県企業局などが管理する多数のダムが運用されている。

洪水時において、従来はダム管理者ごとに個別の手法で降雨・流出予測を行ってきたため、上下流にあるダムとの連携が困難であった（図3左）。

本システムでは、流出予測結果についてクラウドサービスを用いて配信することによって、機関の壁を超えた流出予測情報等の共有が可能となった（図3右）。

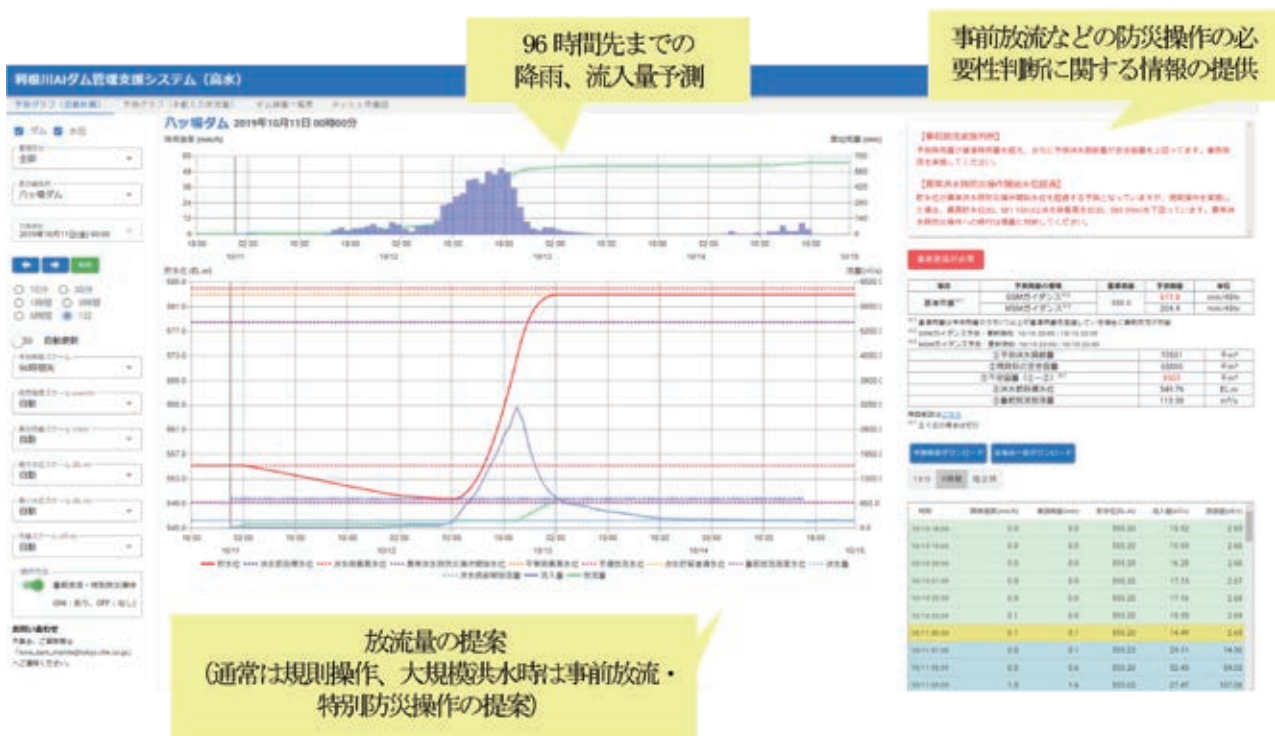


図1：利根川AIダム管理支援システム画面例（高水）

- ▶本システムでは参考値となる県・電力ダムを含めた主要25ダムを対象として、流入量予測や事前放流、異常洪水時防災操作や特別防災操作などの防災操作に必要な情報をリアルタイムで提供する。
- ▶流出予測情報や上下流ダムの操作予測を、クラウドサービスを用いてインターネットを介し、情報を配信することによって、国土交通省以外の機関においても同じ情報を得られるようになった。
- ▶これらによって、洪水時に高度なダムの統合運用操作を実施することができるようになる。例えば、大規模な洪水が予測された場合に、事前放流

を実施する場合や、下流で浸水被害の恐れがある場合の特別防災操作の実施など、共通の予測画面を用いた情報共有を行い、各関係機関の連携のとれた運用が可能となる。

3. 今後の展開

今後、様々な検証・調整の後、本システムにより情報共有を行うことで、より高度なダム運用が期待される。本業務で提案したAI強化学習については、先進事例として学会・勉強会等で発表することで、技術の普及に努め、全国的なダム管理の高度化に向けて貢献していく。

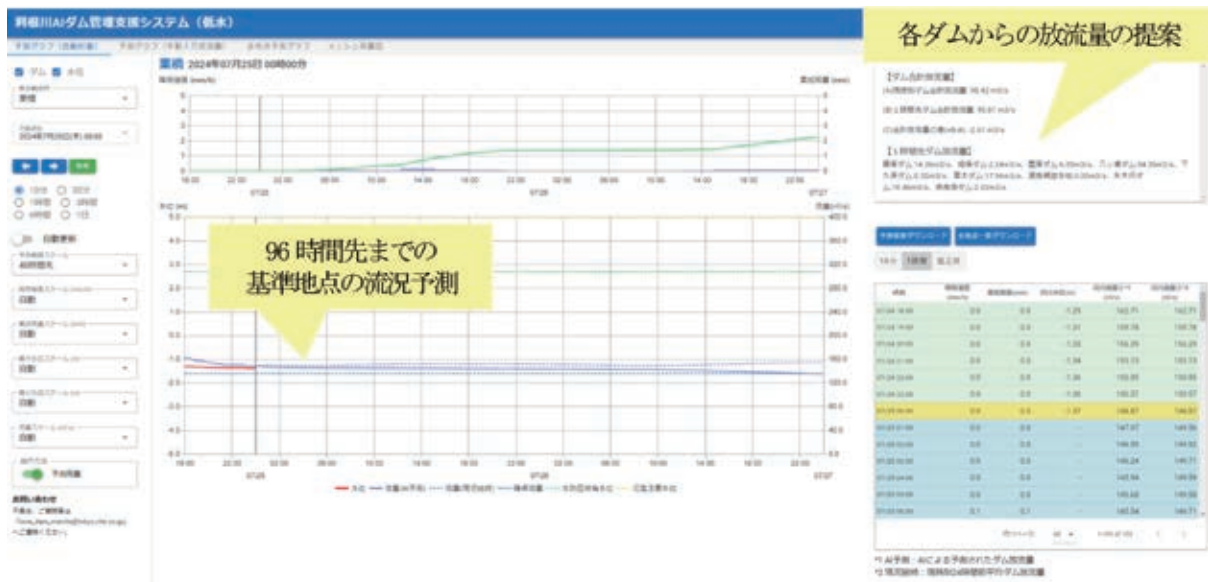


図2：利根川AIダム管理支援システム画面例（低水）

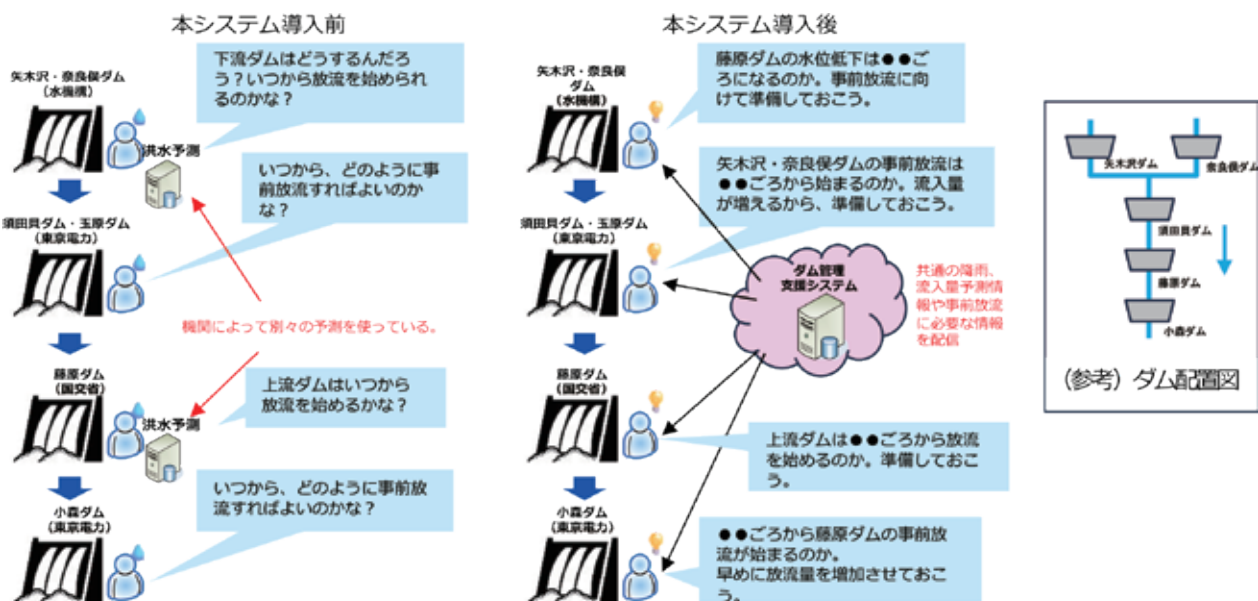


図3：事前放流におけるシステム導入前後のイメージ

みちのくインフラ DX 奨励賞の受賞

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 松 戸 努

1. はじめに

この度、「令和4年度 湯沢河川国道管内交通事故検討業務」が「令和5年度みちのくインフラDX奨励賞【工事・業務部門】」を受賞しました。

みちのくインフラDX奨励賞は、東北みらいDX・i-Construction連絡調整会議がインフラ分野のDXに係る他の模範となる優れた成果・効果・取組をベストプラクティスとして広く紹介するものであり、本稿では、受賞理由となったMMS3D点群データを活用した交通安全対策検討手法について報告いたします。

2. 業務の目的

本業務は、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所の管内道路における交通安全性の向上を目的として、交通事故の要因分析や対策検討を行ったものです。当業務では、事故危険箇所指定されている一般国道13号中田交差点を対象として、「右折レーンセパレート化」対策に関する有効性の検証を行いました。「右折レーンセパレート化」とは、直進レーンと右折レーンの間にゼブラ帯等で隔離を設けることにより、交差点内の右折待ち車両から対向車の見通しを向上させる対策です。

3. DXを活用した交通安全対策の有効性検証

(1) VRを活用した実証実験の実施

右折レーンセパレート化対策に関する有効性を検証するため、バーチャルリアリティ（VR）を活用したドライビングシミュレータ（DS）による仮想空間上での実証実験を実施しました。本実験では、道路線形や交差点形状を仮想空間上で高精度に再現することにより、ドライバー目線から対向車等の見え方を実走行と同じように、かつ対策実施後の状況も評価することが可能となりました。この結果、右折待ち車両が安全に右折行動を開始するために必要な対向直進車との視認距離を定量化し、計画した対策の有効性を客観的に評価することが出来ました。



図-1 VRを活用したDS実験の様子

(2) MMS3D点群データを活用したVRの精度向上

実験に用いたVRは、国土交通省が保有するMMS（モバイルマッピングシステム）による3D点群データを活用することで、道路線形や交差点形状だけでなく、沿道施設等を含めて高い精度で現地状況を再現するとともに、作業の効率化を図ることが可能となりました。



図-2 MMS点群データを用いたVRの構築

4. まとめ

MMS3D点群データを活用した検討手法を導入することにより、仮想空間上での実証実験がより高い精度で効率的に実施可能となり、施工前に対策の有効性を明らかにすることで、より実効性の高い交通安全事業の展開が期待されます。今後も、この技術を活用するとともに、さらなる技術開発に取り組み、安全・安心な交通社会の実現に貢献して参ります。



令和5年度「みちのくインフラDX 奨励賞」を受賞して

新和設計株式会社 齋藤 恵太

1. はじめに

令和元年度から実施してきた「みちのくi-construction 奨励賞」は令和4年度より「みちのくインフラDX 奨励賞」に改称され、東北地方におけるインフラ分野のDXの普及・拡大への取組みが表彰対象となっている。

この度、弊社で取り組んだ路線測量業務にて工事・業務部門（東北地方整備局発注）での表彰を受けたので、業務で取り組んだ内容等についてご報告いたします。

2. 業務の概要

本業務は、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所より発注された測量業務で、一般国道4号盛岡南道路事業における道路詳細設計の基礎資料を得るため、延長7.7kmにわたる3次元点群測量、路線測量を行った。

測量箇所に存在する各種の支障条件を回避するため、UAVグリーンレーザ測量、車載写真レーザ測量及び地上レーザ測量を導入し、従来手法と組み合わせたハイブリッド計測により、測量範囲の3次元点群データを漏れなく、精度よく取得し、路線測量等へ活用した。

3. 実施区間の制限条件と課題

測量範囲に広く分布する圃場（植生（水稲））や、交差する河川水域部においては通常近赤外線レーザでは地形（水底）の情報取得が困難であった。また、現道は交通量が多く、道路上でのUAV飛行が不可であった。更に、鉄道部の立入規制も支障となった。

4. 問題の解決策

4.1. UAVグリーンレーザ測量

広域な作業面積を効率的、かつ高精度に計測するため、水陸同時計測が可能な「UAVグリーンレーザ」を採用した。これにより、圃場（植生）部と水部の地形情報取得が可能となり、欠測率の縮減が可能となった。



写真1 UAVグリーンレーザ測量の作業状況

4.2. 車載写真レーザ測量

現道の車両走行可能エリアにおいては、車載写真レーザ測量を採用することで、UAV飛行の代替が可能となった。車道内への技術者立入りを回避することで、事故リスクの低減にも繋がった。



写真2 車載写真レーザ測量の作業状況

4.3. 地上レーザ測量

立入規制区域（鉄道部）では、地上レーザ測量により3次元データを取得した。なお、確実にレール高さ等の鉄道敷を捉えるため近接作業が必要になったが、鉄道管理者の許可のもとJR工事管理者及び列車見張り員（有資格者）の配置により、安全管理措置を行ったうえで計測作業を行った。



写真3 地上レーザ測量の作業状況



図2 点群データ+3D都市モデル+3次元設計データの合成

5. 路線測量（縦横断面図データファイル作成）

ハイブリット計測により取得したデータを3次元点群データに合成し、地形モデルを作成し、縦横断面図データファイルを作成した。道路設計の際に重要となる水部、暗渠部、及び地形モデルに加える傾斜変化点（ブレークライン）は、トータルステーションやレベルを用いた補備測量により取得し、測量の品質を確保した。

6. 3D都市モデル作成

支障建物等の把握や住民との合意形成に有効な成果作成を目的に、取得した点群データから、計画ルート沿線の建物や橋梁、電柱等のモデル化を行い、LODクラス1程度（箱形モデル）の3D都市モデルを作成した。

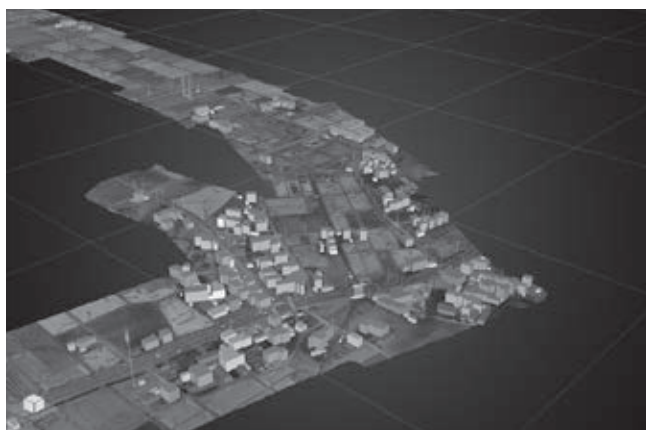


図1 3D都市モデル（箱型モデル）

7. 3次元設計データ作成

概略設計段階の2次元設計データを用いて3次元設計データを作成し、現況（3D都市モデル）に重ねた3D資料を作成した。計画の3D可視化による分かりやすい資料を路線測量の成果に加えた。

8. おわりに

測量分野の「i-construction」である3次元計測は外業の縮減や高密度データの取得が可能となり生産性向上が見込めるほか、安全面でのメリットも多い。DX関連のICT機器の技術進歩はめざましく、労働人口の減少・担い手不足解消のため、更なる進展、普及が期待できるものと考えている。一方、3次元測量手法は、各手法により得手不得手があることから、目的に応じた測量手法の使い分けや組み合わせが必要である。測量の基本に立ち帰り、踏査時や計測後の現地調査における気付き、技術的な判断が測量成果品質の確保において最も重要と考える。



写真4 UAVレーザ測量の作業状況

● 謝辞

本受賞に際しまして、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 調査課の皆様には多大なるご指導、ご助言をいただきました。ここに感謝申し上げます。

建設技術公開 EE東北 '24 について

株式会社ダイエツ 樋口章大

平成2年からスタートし、今年で33回目となる『建設技術公開EE東北'24』が夢メッセみやぎで開催されました。EE東北のEEとはEngineering Exhibition（エンジニアリング・エキシビション）の略で、新技術を広く公開するという意味が込められており、建設事業に関わる新技術、新工法、新材料、その他時代のニーズに対応して開発された技術が毎年公開されてきました。

主催はEE東北実行委員会（委員長：東北地方整備局 企画部長）で19の建設関連団体等から構成され、建設コンサルタンツ協会東北支部もその1員となっております。

■開催概要

期 間：2024年6月5日（水）～6月6日（木）

場 所：夢メッセみやぎ

（宮城県仙台市宮城野区港3丁目1-7）

来場者数：17,100人（過去最多）（主催者発表値）

（内訳：6/5 9,800人、6/6 7,300人）

出展者数：378

出展技術：958

テ ー マ：『広げよう新技術 つなげよう未来へ』

また、新技術の展示以外にも基調講演、新技術プレゼンテーション、アシストスーツ体験会、学生向けに出展企業とマッチングができる広場や会場に来られない方に向けたライブ配信など、様々なプログラムが各会場で行われました。

建設コンサルタンツ協会東北支部からは34社（グループ出展含む）が参加し、新技術の紹介や展示を行いました。



写真1：テープカットの様子

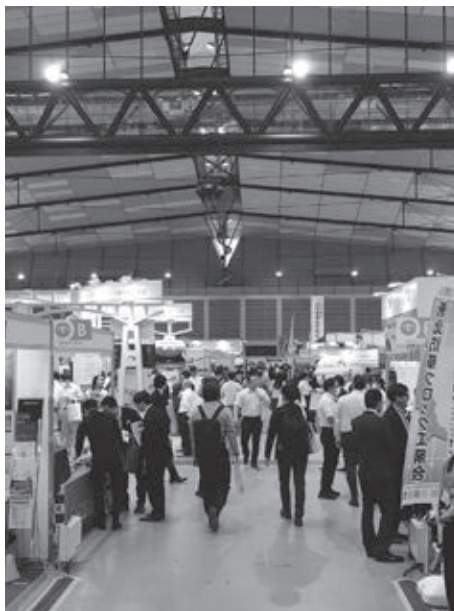


写真2：屋内会場



写真3：屋外会場

令和 6 年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 一覧

【局長表彰】

請負業者名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)アルファ水工コンサルタンツ	青森港国有港湾施設維持管理計画書修正外業務	(管理技術者) 堀江 岳人	北海道市	青森港湾	港湾(維持管理計画調査)
いであ(株)青森営業所	岩木川整備計画等検討業務	(管理技術者) 堀江 克也	青森県市	青森河川国道	土木(河川)
いであ(株)秋田営業所	雄物川下流水害リスクマップ検討業務	(管理技術者) 半沢 論	秋田県市	秋田河川国道	土木(河川)
エイト技術(株)	溝延北地区用地調査等業務	(主任担当者) 太田 勝久	青森県市	山形河川国道	補償
(株)エイト日本技術開発山形営業所	立川地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 中垣 毅	山形県市	酒田河川国道	土木(橋梁)
応用地質(株)東北事務所	最上川水系ダム水辺現地調査(底生動物)業務	(管理技術者) 浅見 和弘	仙台市宮城野区	最上川ダム統合管理	土木(ダム)
(株)オリエンタルコンサルタンツ秋田事務所	玉川ダム遠隔操作化設計業務	(管理技術者) 坂上 竜也	秋田県市	玉川ダム	土木(ダム)
川崎地質(株)北日本支社	磐井川堤防詳細設計業務	(管理技術者) 大坪 智博	仙台市宮城野区	岩手河川国道	土木(河川)
(株)建設技術研究所東北支社	鳥海ダム事業計画検討業務	(管理技術者) 鈴木 正規	仙台市青葉区	鳥海ダム工事	土木(ダム)
(株)建設技術研究所東北支社	四十四田ダム再生環境影響評価業務	(管理技術者) 石毛 孝慈	仙台市青葉区	北上川ダム統合管理	土木(ダム)
セントラルコンサルタンツ(株)東北支社福島営業所	会津地区道路設計業務	(管理技術者) 菊池 皓次	福島県市	郡山国道	土木(道路)
大日本ダイヤコンサルタンツ(株)青森事務所	青森港油川地区土質調査	(管理技術者) 佐藤 春夫	青森県市	青森港湾	港湾(地質調査)
大日本ダイヤコンサルタンツ(株)福島事務所	福島管内トンネル点検業務	(管理技術者) 水島 秀明	福島県市	福島河川国道	土木(トンネル)
(株)東京建設コンサルタンツ秋田営業所	能代地区電線同溝外設計業務	(管理技術者) 滝澤 稔	秋田県市	能代河川国道	土木(道路)
(株)東京建設コンサルタンツ東北支社	樋門・樋管操作支援システム検討業務	(管理技術者) 太田垣 暁	仙台市青葉区	東北技術	土木(河川)
(株)東建工営	鳥海ダム工務他技術資料作成業務	(管理技術者) 菊地 晃	宮城県市	鳥海ダム工事	発注者支援、行政事務補助(土木、補償)
東邦技術(株)	今泉蟹沢地区地質調査業務	(主任技術者) 佐々木健司	秋田県市	能代河川国道	地質調査
鳴子ダム減水区間対策検討他業務 八千代エンジニアリング・水源地環境センター設計共同体	鳴子ダム減水区間対策検討他業務	(管理技術者) 鈴木 伴征	仙台市青葉区	鳴子ダム	土木(ダム)
日本工営(株)仙台支店	宮城南部構造物補修設計業務	(管理技術者) 橋口 健一	仙台市青葉区	仙台河川国道	土木(道路)
(株)日本港湾コンサルタンツ東北事務所	酒田港外港地区港湾施設施工方策検証業務	(管理技術者) 柴田 大介	仙台市青葉区	酒田港湾	港湾(施工関係業務)
(株)ニュージェック秋田事務所	成瀬ダムグラウチング解析業務	(管理技術者) 新家 拓史	秋田県市	成瀬ダム工事	土木(ダム)
(株)復建技術コンサルタンツ福島支店	磐城地区道路設計業務	(管理技術者) 安斎 智広	福島県市	磐城国道	土木(道路)
(インフラDX・災害復旧関連)					
(株)建設技術研究所東北支社	吉田川中流部遊水地概略設計業務	(管理技術者) 巽 龍太郎	仙台市青葉区	北上川下流河川	土木(河川)
柴田工事調査(株)	河川災害復旧事業多数権利者処理等業務	(主任担当者) 高橋 純	秋田県市	宮城南部復興	補償
大和工営(株)	鮭川流量観測業務	(主任技術者) 佐藤 雅彦	山形県市	新庄河川	測量
(株)復建技術コンサルタンツ秋田支店	湯沢管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 鈴木 勝浩	秋田県市	湯沢河川国道	土木(道路)
(株)復建技術コンサルタンツ盛岡支店	矢次地区道路予備設計業務	(管理技術者) 岩盛 圭	岩手県市	岩手河川国道	土木(道路)

【事務所長表彰】

請負業者名	業務名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
秋田河川国道管内道路防災点検業務 日本工営・測地コンサルタンツ設計共同体	秋田河川国道管内道路防災点検業務	(管理技術者) 井上 剛	秋田県市	秋田河川国道	土木(道路)
秋田管内道路施設利活用調査検討業務 パシフィックコンサルタンツ・日本総合研究所設計共同体	秋田管内道路施設利活用調査検討業務	(管理技術者) 栃木 秀典	秋田県市	秋田河川国道	土木(道路)
朝日航洋(株)	津軽ダム堆砂測量	(主任技術者) 戸神 昌裕	青森県市	岩木川ダム統合管理	測量
(株)東コンサルタンツ	磐城国道管内交通量調査業務	(主任技術者) 高橋 大樹	福島県市	磐城国道	測量
(株)アルファ水工コンサルタンツ	相馬港整備基礎調査	(管理技術者) 堀江 岳人	北海道市	小名浜湾	港湾(計画調査)
いであ(株)東北支店	北上川水系河川計画等検討業務	(管理技術者) 半沢 論	仙台市青葉区	北上川下流河川	土木(河川)
いであ(株)山形営業所	最上川水系洪水予測高度化検討業務	(管理技術者) 樋田 祥久	山形県市	山形河川国道	土木(河川)
いであ(株)東北支店	久慈港環境保全方策検討業務	(管理技術者) 工藤健太郎	仙台市青葉区	釜石港湾	港湾(計画調査)

話 題

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
磐城国道事務所改築事業監理業務 東北地域づくり・パスク・東建工営設計共同体	磐城国道事務所改築事業監理業務	(管理技術者) 吉田 広幸	仙 台 市 青 葉 区	磐城国道	土木 (道路)
(株)ウスマ地域総研	雄物川下流 (秋田地区) 河川横断測量その他緊急業務	(主任技術者) 石綿 智幸	秋 田 県 秋 田 市	秋 田 河川国道	測量
(株)ウスマ地域総研	秋田地区道路設計業務	(管理技術者) 小山 甫	秋 田 県 秋 田 市	秋 田 河川国道	土木 (道路)
(株)エイト日本技術開発青森事務所	青森港油川地区用地測量	(管理技術者) 藤原 侑己	青 森 県 青 森 市	青森港湾	港湾 (測量)
エイト技術(株)	金ヶ崎拡幅物件再算定等業務	(主任担当者) 竹ヶ原秀晴	青 森 県 青 森 市	岩 手 河川国道	補償
エイト技術(株)	箱石地区外用地調査等業務	(主任担当者) 中川 秀一	青 森 県 青 森 市	三陸国道	補償
(株)エイト日本技術開発盛岡支店	川内地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 中垣 毅	岩 手 県 盛 岡 市	三陸国道	土木 (道路)
(株)エイト日本技術開発秋田営業所	河辺地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 中垣 毅	秋 田 県 秋 田 市	秋 田 河川国道	土木 (道路)
応用地質(株)東北事務所	鳴瀬川ダム貯水池地すべり周辺地質調査	(主任技術者) 遠藤 司	仙 台 市 宮 城 野 区	鳴瀬川総合開発工事	地質
応用地質(株)山形営業所	最上地区動態観測調査業務	(主任技術者) 境 正樹	山 形 県 山 形 市	山 形 河川国道	地質
応用地質(株)東北事務所	七ヶ宿ダム水辺現地調査 (両生類・爬虫類・哺乳類) 業務	(管理技術者) 坂本 正吾	仙 台 市 宮 城 野 区	七ヶ宿ダム	土木 (ダム)
(株)オリエンタルコンサルタンツ青森事務所	高瀬川・小川原湖水辺現地調査 (魚類) 業務	(管理技術者) 山本 和司	青 森 県 青 森 市	高 瀬 川	土木 (河川)
(株)オリエンタルコンサルタンツ東北支社	仙台都市圏交通結節点調査検討業務	(管理技術者) 加藤 拓哉	仙 台 市 青 葉 区	仙 台 河川国道	土木 (道路)
(株)オリエンタルコンサルタンツ東北支社	鳴瀬川ダム付替道路橋梁予備設計業務	(管理技術者) 審良 郁夫	仙 台 市 青 葉 区	鳴瀬川総合開発工事	土木 (道路)
(株)オリエンタルコンサルタンツ秋田事務所	湯沢管内交通事故検討業務	(管理技術者) 松戸 努	秋 田 県 秋 田 市	湯 沢 河川国道	土木 (道路)
(株)オリエンタルコンサルタンツ秋田事務所	能代管内事故対策検討業務	(管理技術者) 松戸 努	秋 田 県 秋 田 市	能 代 河川国道	土木 (道路)
(株)オリエンタルコンサルタンツ山形事務所	酒田管内渋滞対策検討業務	(管理技術者) 松戸 努	山 形 県 山 形 市	酒 田 河川国道	土木 (道路)
葛根田川 (下流) 砂防堰堤設計業務 いであ・吉田測量設計設計共同体	葛根田川 (下流) 砂防堰堤設計業務	(管理技術者) 森 克味	岩 手 県 岩 手 市	岩 手 河川国道	土木 (砂防)
釜房ダムフォローアップ検討業務 水源環境センター・建設環境研究所設計共同体	釜房ダムフォローアップ検討業務	(管理技術者) 坂本 和雄	東 京 都 千 代 田 区	釜房ダム	土木 (ダム)
北上川下流北上川左岸上流地区堤防等設計業務 東邦技術・八千代エンジニアリング設計共同体	北上川下流北上川左岸上流地区堤防等設計業務	(管理技術者) 池田 博之	仙 台 市 宮 城 野 区	北上川下流河川	土木 (河川)
北上市黒岩地区用地調査等業務 三和技術コンサルタント・高嶋不動産鑑定事務所設計共同体	北上市黒岩地区用地調査等業務	(主任担当者) 須藤 千春	山 形 県 山 形 市	岩 手 河川国道	補償
(株)キタコン	岩木川上流流量観測・採水作業	(主任技術者) 藤田 欣裕	青 森 県 青 森 市	青 森 河川国道	測量
旧北上川鹿又地区堤防整備用地調査等業務 三和技術コンサルタント・高嶋不動産鑑定事務所設計共同体	旧北上川鹿又地区堤防整備用地調査等業務	(主任担当者) 高橋 康志	山 形 県 山 形 市	北上川下流河川	補償
(株)協和コンサルタンツ	築館地区道路詳細設計業務	(管理技術者) 中村 勇二	仙 台 市 宮 城 野 区	仙 台 河川国道	土木 (道路)
(株)建設環境研究所東北支社	北上川水系生物環境調査検討業務	(管理技術者) 町田 禎之	仙 台 市 宮 城 野 区	北上川下流河川	土木 (河川)
(株)建設環境研究所東北支社	米代川水辺現地調査 (陸上昆虫類等) 業務	(管理技術者) 沼沢 信一	仙 台 市 宮 城 野 区	能 代 河川国道	土木 (河川)
(株)建設環境研究所東北支社	阿武隈川水系流砂系調査検討業務	(管理技術者) 叶 正興	仙 台 市 宮 城 野 区	福 島 河川国道	土木 (河川)
(株)建設技術研究所盛岡事務所	北上川水系洪水予測高度化検討業務	(管理技術者) 高見 隆三	岩 手 県 岩 手 市	岩 手 河川国道	土木 (河川)
(株)建設技術研究所東北支社	北秋田地区補足設計業務	(管理技術者) 矢口 雅博	仙 台 市 宮 城 野 区	能 代 河川国道	土木 (道路)
(株)建設技術研究所山形営業所	最上川上流大久保遊水地施設等詳細設計業務	(管理技術者) 白根 直樹	山 形 県 山 形 市	山 形 河川国道	土木 (河川)
(株)建設技術研究所東北支社	新庄管内砂防事業計画検討業務	(管理技術者) 内柴 良和	仙 台 市 青 葉 区	新庄河川	土木 (砂防)
(株)建設技術研究所東北支社	吾妻山他火山砂防対策検討業務	(管理技術者) 内柴 良和	仙 台 市 青 葉 区	福 島 河川国道	土木 (砂防)
(株)建設技術研究所盛岡事務所	田瀬ダム水質保全調査業務	(管理技術者) 大石 夏帆	岩 手 県 岩 手 市	北上川ダム統合管理	土木 (ダム)
(株)建設技術研究所東北支社	最上川ダム他操作等高度化検討業務	(管理技術者) 高木 秀治	仙 台 市 青 葉 区	最上川ダム統合管理	土木 (ダム)
(株)郡山測量設計社	阿武隈川上流河川環境整備等検討業務	(管理技術者) 山寺 敬三	福 島 県 福 島 市	福 島 河川国道	土木 (河川)
国際航業(株)盛岡支店	水沢地区外道路点検・補修設計業務	(管理技術者) 大粒 茂樹	岩 手 県 岩 手 市	岩 手 河川国道	土木 (道路)
国際航業(株)秋田営業所	能代管内防災点検設計業務	(管理技術者) 中村 芳貴	秋 田 県 秋 田 市	能 代 河川国道	土木 (道路)
権現堂交差点改良用地調査等業務 柴田工事調査・やまだ不動産鑑定設計共同体	権現堂交差点改良用地調査等業務	(管理技術者) 山内 信也	秋 田 県 湯 沢 市	南三陸沿岸河川	補償
(株)寒河江測量設計事務所	遊佐象潟道路 (小砂川地区) 裁決申請図書作成等業務	(主任担当者) 村形 義信	山 形 県 寒 河 江 市	秋 田 河川国道	補償
(株)寒河江測量設計事務所	大覚野峠防災外用地調査等業務	(主任担当者) 滝田 健一	山 形 県 寒 河 江 市	能 代 河川国道	補償
(株)三協技術	釜房ダム貯水池等堆砂測量	(主任技術者) 島田 亘	仙 台 市 青 葉 区	釜房ダム	測量

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
柴田工事調査㈱	鳥海ダム多数権利者処理等業務	(主任担当者) 高橋 純	秋田県 湯沢市	鳥海ダム 工事	補償
庄内測量設計舎・資産管理評価研究所 J V	美砂古地区歩道外用地調査等業務	(主任担当者) 星 康広	山形県 山形市	湯沢川 河川	補償
庄内地区防災点検業務 日本工営・新和設計設計共同体	庄内地区防災点検業務	(管理技術者) 小林基比古	山形県 山形市	酒田 河川	土木 (道路)
新和設計㈱	古口地区測量業務	(主任技術者) 齋藤 恵太	山形県 山形市	山形 河川	測量
新和設計㈱郡山支店	矢吹鏡石地区三次元測量業務	(主任技術者) 齋藤 恵太	福島県 郡山市	郡山 河川	測量
㈱新和調査設計	阿武隈川上流河川区域測量	(主任技術者) 米澤 光華	福島県 郡山市	福島 河川	測量
セントラルコンサルタント(㈱東北支社秋田営業所)	種梅地区橋梁設計業務	(管理技術者) 青木 佑介	秋田県 秋田市	能代 河川	土木 (道路)
セントラルコンサルタント(㈱東北支社秋田営業所)	今泉地区道路予備設計業務	(管理技術者) 菊池 皓次	秋田県 秋田市	能代 河川	土木 (道路)
セントラルコンサルタント(㈱福島営業所)	阿武隈川上流代替道路等設計業務	(管理技術者) 奥城 洋	福島県 福島市	福島 河川	土木 (道路)
㈱創研コンサルタント	八幡平山系砂防施設地質調査	(主任技術者) 浅川 敬公	秋田県 秋田市	湯沢 河川	地質
大日本ダイヤコンサルタント(㈱福島事務所)	郡山国道管内交通安全設計業務	(管理技術者) 成田 武志	福島県 郡山市	郡山 河川	土木 (道路)
大日本ダイヤコンサルタント(㈱青森事務所)	板橋山地区道路予備設計業務	(管理技術者) 岡田 篤	青森県 青森市	青森 河川	土木 (道路)
大日本ダイヤコンサルタント(㈱盛岡事務所)	三陸国道事務所交通事故現況整理外設計業務	(管理技術者) 岩盛 手岡 佐藤 道子	岩手県 盛岡市	三陸 河川	土木 (道路)
大日本ダイヤコンサルタント(㈱東北支社)	石巻地区地質調査業務	(主任技術者) 仙台 谷口 雄太	仙台 青葉区	仙台 河川	地質
大日本ダイヤコンサルタント(㈱秋田事務所)	能代管内道路計画検討業務	(管理技術者) 岡田 篤	秋田県 秋田市	能代 河川	土木 (道路)
大日本ダイヤコンサルタント(㈱山形事務所)	酒田港外港地区土質調査	(管理技術者) 佐藤 春夫	山形県 山形市	酒田 港湾	港湾 (計画調査)
高島地区用地調査等業務 東邦技術・ジェイ・ビー・ブライアン設計共同体	高島地区用地調査等業務	(主任担当者) 小田島誠一	秋田県 大仙市	山形 河川	補償
玉川ダム流量観測及び採水業務 羽後測量・東邦技術設計共同体	玉川ダム流量観測及び採水業務	(主任技術者) 滝澤 徳仁	秋田県 湯沢市	玉川 ダム	測量
中央コンサルタンツ(㈱仙台支店)	岩木川災害復旧事業護岸測量設計業務	(管理技術者) 鈴木 亮一	仙台 青葉区	青森 河川	土木 (河川)
中央コンサルタンツ(㈱仙台支店)	相双地区道路設計業務	(管理技術者) 内田 道雄	仙台 青葉区	磐城 河川	土木 (道路)
中央コンサルタンツ(㈱仙台支店)	内川流域河川施設詳細設計 (その2) 業務	(管理技術者) 吉川 耕平	仙台 青葉区	宮城 南部復興	土木 (河川)
中央復建コンサルタンツ(㈱福島営業所)	浅川トンネル管理設備詳細設計業務	(管理技術者) 吉井 伸治	福島県 福島市	福島 河川	土木 (道路)
㈱長大	米ヶ崎地区橋梁予備設計業務	(管理技術者) 野本 淳也	仙台 青葉区	仙台 河川	土木 (道路)
㈱東京建設コンサルタント岩手事務所	宮古地区道路補足設計業務	(管理技術者) 阿部 広昭	岩手県 岩手市	三陸 河川	土木 (道路)
㈱東京建設コンサルタント山形営業所	最上川下流浸水想定区域検討業務	(管理技術者) 茂木 鉄平	山形県 山形市	酒田 河川	土木 (河川)
東京コンサルタンツ(㈱東北支店)	青森管内測量設計業務	(管理技術者) 松川 秀敏	仙台 青葉区	青森 河川	土木 (河川)
東京コンサルタンツ(㈱東北支店)	阿武隈川上流鏡石・矢吹地区流入樋門詳細設計業務	(管理技術者) 三井 一夫	仙台 青葉区	福島 河川	土木 (河川)
㈱東建工営	岩木川ダム統合管理事務所工事監督支援業務	(管理技術者) 田澤 邦彦	宮城 仙台市	岩木川ダム 統合管理	土木 (ダム)
東邦技術㈱	雄物川下流 (雄和地区) 河川横断測量その他緊急業務	(主任技術者) 高橋 隆幸	秋田県 秋田市	秋田 河川	測量
東邦技術㈱	雄物川上流災害調査測量等業務	(主任技術者) 加藤 勝	秋田県 秋田市	湯沢 河川	測量
東邦技術㈱	鳥海ダム貯水池地質調査業務	(主任技術者) 佐藤 智宏	秋田県 大仙市	鳥海ダム 工事	地質
東邦技術㈱	福島地区用地補償総合技術業務	(主任担当者) 川崎 満	秋田県 秋田市	福島 河川	補償
㈱ドーコン	宮城管内自転車利用空間検討業務	(管理技術者) 菅藤 学	仙台 青葉区	仙台 河川	土木 (道路)
日本工営(㈱秋田事務所)	米代川能代地区河道掘削測量設計業務	(管理技術者) 栗山 卓也	仙台 青葉区	能代 河川	土木 (河川)
日本工営(㈱秋田事務所)	成瀬ダム本体細部設計業務	(管理技術者) 中村 浩之	仙台 青葉区	成瀬 ダム	土木 (ダム)
日本工営(㈱東北支社事務所)	四十四田ダム再生水理模型実験業務	(管理技術者) 貝塚 和彦	仙台 青葉区	北上川ダム 統合管理	土木 (ダム)
日本工営(㈱山形事務所)	月山ダム水辺現地調査 (底生動物) 業務	(管理技術者) 相館 信子	山形県 山形市	月山 ダム	土木 (ダム)
㈱ニュージェック岩手事務所	南三陸管内トンネル補修設計業務	(管理技術者) 松山 彰宏	岩手県 盛岡市	南三陸沿岸 河川	土木 (道路)
㈱ニュージェック秋田事務所	鳥海ダムグラウト検討業務	(管理技術者) 新家 拓史	秋田県 秋田市	鳥海ダム 工事	土木 (ダム)
㈱ニュージェック福島事務所	富田地区電線共同溝事業支援業務	(管理技術者) 長谷川雄一	福島県 福島市	郡山 河川	土木 (道路)
㈱ニュージェック福島事務所	摺上川ダム維持管理検討業務	(管理技術者) 赤松 利之	福島県 福島市	摺上川 ダム	土木 (ダム)

話 題

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
能代管内交通安全外事業監理業務 東北地域づくり・近代設計設計共同体	能代管内交通安全外事業監理業務	(管理技術者) 東海林 寿	仙 台 市 区 青 葉 区	能 代 河 川 国 道	土木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株)盛岡事務所	金ヶ崎地区橋梁詳細設計業務	(管理技術者) 戸松 周	岩 手 県 市 盛 岡 市	岩 手 河 川 国 道	土木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株)盛岡事務所	南三陸南部地区整備効果検討業務	(管理技術者) 高味 亮太	岩 手 県 市 盛 岡 市	南三陸沿岸 国 道	土木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株)東北支社	名取川河川計画検討業務	(管理技術者) 堀合 孝博	仙 台 市 区 青 葉 区	仙 台 河 川 国 道	土木 (河川)
パシフィックコンサルタンツ(株)秋田事務所	雄物川上流自然再生検討業務	(管理技術者) 真木 伸隆	秋 田 県 市 田 川 市	湯 沢 河 川 国 道	土木 (河川)
パシフィックコンサルタンツ(株)福島営業所	福島管内道路整備計画検討業務	(管理技術者) 白石 雅人	福 島 県 市 郡 山 市	福 島 河 川 国 道	土木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株)東北支社	東北管内堤防開削調査業務	(主任技術者) 田村友紀夫	仙 台 市 区 青 葉 区	東北技術	地質
パシフィックコンサルタンツ(株)盛岡事務所	釜石港利用方策検討業務	(管理技術者) 山口 達治	岩 手 県 市 盛 岡 市	釜石港湾	港湾 (計画調査)
パシフィックコンサルタンツ(株)東北支社	小名浜港東港地区防波堤 (第二沖) IV区 基本設計	(管理技術者) 山口 達治	仙 台 市 区 青 葉 区	仙台港湾空 港技術調査	港湾 (設計)
(株)パスコ青森支店	十和田湖航空レーザ測量	(主任技術者) 鈴木 英文	青 森 県 市 青 森 市	青 森 河 川 国 道	測量
福島管内橋梁点検業務 パシフィックコンサルタンツ・テクノ東北設計共同体	福島管内橋梁点検業務	(管理技術者) 戸松 周	仙 台 市 区 青 葉 区	東 北 道 路 MC	土木 (道路)
(株)福田水文センター	令和4～5年度米代川河川管理施設監理検討 業務	(管理技術者) 澤田 浩一	北 海 道 市 札 幌 市	能 代 河 川 国 道	土木 (河川)
(株)福山コンサルタント秋田営業所	秋田管内道路計画資料作成業務	(管理技術者) 平柳 圭	秋 田 県 市 田 川 市	秋 田 河 川 国 道	土木 (道路)
(株)福山コンサルタント山形営業所	村山地区路線検討業務	(管理技術者) 田村 友治	山 形 県 市 村 山 市	山 形 河 川 国 道	土木 (道路)
(株)双葉建設コンサルタント	角川・銅山川流域砂防施設等状況把握業務	(主任技術者) 八畝 清一	山 形 県 市 新 庄 市	新庄河川	測量
(株)復建技術コンサルタント盛岡支店	気仙沼湾横断橋維持管理資料作成業務	(管理技術者) 飯土井 剛	岩 手 県 市 盛 岡 市	南三陸沿岸 国 道	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント	石巻地区外道路設計業務	(管理技術者) 杉山 洋	仙 台 市 区 青 葉 区	仙 台 河 川 国 道	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント	東北管内道路橋のメンテナンスに関する検討 業務	(管理技術者) 飯土井 剛	仙 台 市 区 青 葉 区	東 北 道 路 MC	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント山形支店	山形管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 飯土井 剛	山 形 県 市 山 形 市	山 形 河 川 国 道	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント福島支店	福島管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 水木 亨	福 島 県 市 郡 山 市	福 島 河 川 国 道	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント	東北管内道路施設の維持管理に関する検討 業務	(管理技術者) 飯土井 剛	仙 台 市 区 青 葉 区	東北技術	土木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント山形支店	酒田管内道路水文水質モニタリング調査業務	(主任技術者) 宗倉 弘	山 形 県 市 酒 田 市	酒 田 河 川 国 道	地質
丸森道路事業監理業務 東北地域づくり・みちのくコンサル・近代設計設計共同体	丸森道路事業管理業務	(管理技術者) 島田 正義	仙 台 市 区 青 葉 区	宮城南部 復 興	土木 (道路)
三井共同建設コンサルタント(株)青森営業所	平沼第一排水樋管耐震照査設計業務	(管理技術者) 千葉 透雄	仙 台 市 区 青 葉 区	高 瀬 川	土木 (河川)
三井共同建設コンサルタント(株)東北支社	吉田川河道掘削詳細設計業務	(管理技術者) 平 和博	仙 台 市 区 青 葉 区	北上川下流 河	土木 (河川)
三井共同建設コンサルタント(株)東北支社	横山地区排水樋管詳細設計業務	(管理技術者) 津水 由行	仙 台 市 区 青 葉 区	新庄河川	土木 (河川)
三井共同建設コンサルタント(株)福島営業所	阿武隈川上流遊水地越流堤予備設計業務	(管理技術者) 横川 勝美	福 島 県 市 郡 山 市	福 島 河 川 国 道	土木 (河川)
三井共同建設コンサルタント(株)東北支社	仙台塩釜港石巻港区事業効果整理業務	(管理技術者) 古山 卓司	仙 台 市 区 青 葉 区	塩釜港湾・ 空 港 整 備	港湾 (計画調査)
南三陸沿岸国道事務所花巻・釜石地区工事 監督支援業務 新日本工営・日本振興設計共同体	南三陸沿岸国道事務所花巻・釜石地区工事 監督支援業務	(管理技術者) 七木田俊昭	岩 手 県 市 花 巻 市	南三陸沿岸 国 道	土木 (道路)
陸奥テックコンサルタント(株)	三春ダム水文観測等業務	(主任技術者) 今村 元	福 島 県 市 郡 山 市	三春ダム	測量
八千代エンジニアリング(株)北日本支店	新庄管内堤防等修正設計業務	(管理技術者) 恵美 進一	仙 台 市 区 青 葉 区	新庄河川	土木 (河川)
(株)吉田測量設計	最上川中流大石田地区 (その1) 用地調査等 業務	(主任担当者) 田家 秀紀	岩 手 県 市 盛 岡 市	新庄河川	補償
(株)吉田測量設計	遊水地群公有地用地調査等業務	(主任担当者) 田家 秀紀	岩 手 県 市 盛 岡 市	福 島 河 川 国 道	補償

【部長表彰】

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)長大仙台支店	R5 東北地方整備局管内路車協調システム 調査検討業務	(管理技術者) 松本 章宏	仙 台 市 区 岩 手 県 市	道 路 部	土木 (道路)
日本工営(株)仙台支店	都市及び下水道の水防災まちづくり調査検討 業務	(管理技術者) 林 洋一郎	仙 台 市 区 青 葉 区	建 政 部	土木 (その他)

誰もが働きやすい組織に

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 水出佳奈

1. はじめに

岩手県矢巾町生まれ、盛岡市育ち、岩手大学大学院を修了し、平成17年度より株式会社福山コンサルタントで約17年、そして令和5年度より株式会社オリエンタルコンサルタンツで主に道路・交通計画に従事しています。36歳の時に出産し、男の子二人（双子）の母親になりました。約1年間の産休・育休を経て復職し、保育園に6年間お世話になり、現在こどもたちは小学校2年生になりました。放課後は児童館にたいへんお世話になっています。

少子化、若者の理系離れ、女性の積極活用、働き方改革、コロナ禍によるライフスタイルや就労環境の変化、建設コンサルタンツ業界をとりまく環境の変化など、私が若手技術者だった頃とは大きく状況が変わっています。仕事を取り巻く環境と私の家庭環境の変化、今後の業界への期待について、経験を踏まえながら想いを執筆いたします。

2. 仕事を取り巻く環境の変化と女性の増加

私が就職活動をしていた頃は、建設コンサルタントやゼネコンなどの民間企業は募集数が少なく、残業問題もあり、公務員志望の学生が圧倒的に多い状況でした。就職氷河期の中で私を採用して下さった株式会社福山コンサルタントには心より感謝しております。

これまで、いろいろな大学・高専等で建設コンサルタントの仕事の紹介をする講義の機会を頂きましたが、公務員、ゼネコン、JRやネクスコ等の民間企業に比較すると、建設コンサルタントという仕事そのものの認知度は低く、「残業が多くてたいへん」というイメージが強く、志望者は限定されているものだなと感じています。

と言いましても、私が若手技術者だった頃に比べると女性技術者の数は何倍にも増えていますし（参考まで、当社の女性比率は約3割（正直なところ疑っていたが、転職したら本当に女性が3割いて驚いた）、残業は減少しました。これは、建設コンサルタント業界

全体の大きな努力であると思いますし、特に国土交通省をはじめとする発注者側でも、就労環境の改善や女性職員の拡大などが図られてきている影響も大きいのではないかと感じます。

社会インフラの維持・整備は、行政・建設コンサルタント・ゼネコン等、様々な立場・役割が繋がって成り立っています。技術者を確保していくためには、土木・建設系の業界全体での就労環境改善や教育機関へのアプローチ（中学・高校生への職業紹介、大学生への業界説明）等の取り組みが一層重要になると思います。

3. 結婚・出産と育児休暇

私は高校生の頃から多くの人々の生活基盤を創造する仕事がしたいと思い、土木技術者としてまちづくりに関わっていきたくて思っていました。結婚をした時も、妊娠が分かった時も、それが理由で仕事を離れようとはまったく考えませんでした。

社会人7年目に結婚しましたが、直後の夫の転勤、続けて私の転勤で、別居4年間を過ごしました。同居中も別居中も結婚していることは仕事にほぼ影響なく、家事を分担できることなどは良い点でした。

しかし、妊娠中・出産後は、どうしても出産前とは働き方や頭の中身を変えなければなりません。

私の場合は多胎であり、リスクの高いお産となることは分かっていたので、早めに上司へ報告しました。つわりはひどく、最も仕事に影響したのは出勤や出張などの移動でした。乗り物も歩くのもしんどい状況です。今であればテレワークができるとうよかったと思いました。

双子の育児は想像以上にハードで、夫も9ヶ月の育児休暇を取りました。夫は母乳をあげる以外は何でもできるようになり分担してくれましたが、3時間おきの授乳（準備からゲップ出しまで1時間くらい要する）、それ以外は抱っこをしていないと泣いてしまうため、自分たちのことはひたすら後回しで、常に睡

眠不足の状態でした。こどもの人数+1人の大人によるお世話が理想だと感じます。

男性の育児休業取得率はまだまだ低いのが現状です。祖父母が近くに居ない場合、母親だけの育児はとても負担が大きいことを実感しています。男性の育児休業が当たり前になることを願っています。

4. 共働き生活と育児

赤ちゃんのお世話と仕事の両立で大変なことは、突然の体調不良への対応、まだ円滑な意思疎通ができないため試行錯誤が多いこと、何をするにも目が離せないこと、在宅ワークをしたとしても赤ちゃんのお昼寝中くらいしか仕事に集中できないこと、等でした。

こどもが小学生になれば子育てより仕事中心にできるものかと思っていましたが、そうでもないことが分かりました。突然の体調不良は少なくなるのですが、毎日帰宅後に宿題をさせること、確認してあげること、学校と児童館で疲れて帰ってくるので早く寝せること、しっかり栄養を摂らせること、学級閉鎖の分はテレワークの必要が増えることなど、親が環境の変化に対応していかなければならないこともたくさんありました。また、こどもは学校や友達のことでも悩んだりするようになり、こどもの話をしっかり聞いてあげる時間も大事になります。

家庭と仕事の分担は、基本「できる方がやること」としており、私も夫も概ね半分ずつですが、私の繁忙期は家事・育児とも夫が8~9割になってしまいます。育児に関わる時間が僅かになり、こどもの就寝後に帰宅する日が続くと、こどもは敏感に感じ取り、こどもの中で母親の信頼性が低下し、父親の存在が大きくなっているように感じます。建設コンサルタントで働く父親のみなさんは、同じようなことが起きてはいないでしょうか。女性がフルタイムで働くことは珍しくなくなり、奥様の方に負担を掛けてはいないでしょうか……。家庭と仕事の両立の仕方については、試行錯誤が続きます。

5. 誰もが働きやすい組織に

「女性の働きやすさ」という言葉が遣われがちですが、「残業の制約」「突然の休暇」など、結局は時間的な制約があるかどうかで、それは「介護」や「自分・家族の病気の対応（通院等）」「趣味・仕事以外の勉強」も同じことになります。

自分が親になったら子育てをし、自分の親に介護が必要になったら介護をすること、家族が病気の時に助けることは、男性でも女性でも人として当たり前のことです。その当たり前のことをすることと、仕事を通して社会貢献や自己実現していくこと、経済的に家計を支えていくことは、すべて両立できるべきことであり、その人だけの高望みや過度な欲求ではないはずです。

そのためには、「就労時間」をフレキシブルにする各種制度と、制度の活用の推進、活用する人のキャリアの継続性・持続性の確保がとても重要だと考えています。

つまり、時間制約のある人も単に働き続けられればよいという訳ではなくて、1人の技術者として成長を続けることにより組織の戦力となることで、前向きにやりがいを持ち、組織全体の生産力・技術力の向上に繋がっていく環境の構築を望みます。

私にできることとして、後進のキャリアモデルとなる働きをしていくことと、まだまだこれからですが、身の回りの組織において、誰もが働きやすい環境を創造していくことを頑張っていきたいと思います。



社会人3年目を迎えて

大日本ダイヤコンサルタント株式会社 石川里桜

1. はじめに

入社を機に、埼玉から見知らぬ地“東北・仙台”に引っ越してきて、今年で3年目を迎えました。まだまだ未熟なところはありますが、やっと新しい環境にも仕事にも慣れてきました。今回は、このような機会をいただきましたので、2年目を振り返りながら、いち若手女性技術者としての視点から仕事に対する今の思いを述べさせていただきます。

2. 悪戦苦闘した2年目

私は、地域交通計画室という部署に所属しており、これまで道路設計や交通計画、公営住宅長寿命化計画策定など、まちづくりに関わる幅広い業務に携わってきました。入社1年目の時は研修期間が多かったため、業務に携わったのはほんの一部でしたが、2年目からは主担当として、実務から業務スケジュールの管理や社内外との調整等まで、一つの業務を最初から最後まで遂行することを経験しました。

2年目で本格的に業務に携わる中で最も大変だったと感じたのは、他分野の業務が輻輳した時の対応です。

先程も述べたとおり、私の所属部署は多分野の業務を担当しており、分野によって仕事内容や流れはもちろんのこと、準拠する基準やマニュアル等も異なるため、次々と入ってくる様々な情報を漏れなく整理する必要があります。特に、作業中に別業務の問い合わせがきた際は、瞬時に頭の中を切り替えなければならず、とても苦労しました。

一時期はつらいと感じることもありましたが、今振り返ってみると、複数業務のスケジューリング力やわかりやすいデータ整理の方法、効率的な資料作成手法など、作業を効率的に進める能力が鍛えられ、技術者として成長できた良い経験だったと感じています。

3. 建コンという仕事の面白さ

私が個人的に建設コンサルタントという業種の面白い点だと思っているのは、仕事を通じていろんな地域に触れることができることです。

例えば、道路設計の業務にしても、地域の現況や課題は場所によって様々であり、対象地によって検討方針が異なります。類似事例が少なく対応策に頭を悩ますことも多いですが、新たな発見もたくさん得られます。

また、旅行好きの私にとっては、出張時に東北各地の観光名所や食文化に触れることが仕事の一つの楽しみになっています。

4. おわりに

2年目までは仕事についていくことだけで精一杯になっていましたが、業務遂行力がある程度身についた3年目は、コンサルティングに必要な専門性や技術力を磨くことに特に力を入れていきたいと考えています。

今後、ライフスタイルが大きく変化することが想定される中での生活と仕事の両立に若干不安がありますが、周りの方にもご協力いただきながら、これからも技術者としていろんな仕事に携わることができたらと思います。



写真 紅葉シーズンの奥入瀬溪流

入社してからを振り返って

株式会社ドーコン 伊保橋 英 太

1. はじめに

2023年4月にドーコンに入社して、早くも1年が経過しました。入社時から主に道路設計に携わっています。大学時代は地質学や地盤工学を専攻しており、道路の知識はまったくなく、右も左もわからない状態でした。入社してからしばらくは、聞いたことがない用語について調べたり、図面の見方、CADの操作を一から教わったりなど常に新しいことを吸収していく1年でした。上司や先輩方にご指導いただきながら、道路設計について様々なことを学ぶことができました。おかげさまで少しずつではありますが業務についても理解できるようになり、自分で進められるようになってきています。今後も、日々精進していきたいと思っています。

2. 1年間を振り返って

入社してから1年を通して、いくつかの業務を経験してどの業務でも共通して大変だった、苦労したと感じることは大きく二つあります。「文章の作成」と「複数の業務を同時に進めること」です。

一つ目の文章の作成では、業務の中で議事録、打合せ資料、報告書などの文章を作成する場面が多くあります。私は文章を書くことが得意ではないため、毎回苦労しました。上司に渡した後、添削で多くの修正を出さないために、構成や口語表現などに気を付けて、簡潔にわかりやすいことを意識して書くようになりました。専門的な知識は必要ですが、それらを伝えるための基礎的な部分が重要であると学ぶことができました。

二つ目の複数の業務を同時に進めることについてですが、大学時代は自分の研究についてだけで良かったのに対し、入社後は一つの業務の作業を行い、その後また別の業務の作業を進めるというように、複数の業務の作業を同時進行で進めなければなりません、そうしたことに慣れておらず、中途半端になってしまうことや、期限直前の提出になってしまうこともありました。今後のために改善していかなければいけないと感じています。

3. おわりに

入社をしてから一年が経過し、仕事や社会人としての生活にも多少慣れてきました。慣れてきたからといって、慢心せず、仕事に対し真摯に取り組み、一歩ずつ経験を積み重ねていきたいと思っています。まだまだ分からないことばかりですが、上司や先輩方にご指導いただきながらこれからも新しいことを常に吸収し、成長を続けていきたいと思っています。



三陸沿岸道の復興状況（国内視察：陸前高田市）

1年間の振り返り

株式会社建設技術研究所 森本有祐

1. はじめに

2023年の春に入社し、現在2年目を迎えました。まだまだ経験が浅く、目の前の業務に苦労している状態ではありますが、上司の方々や同期の皆様にご手助けいただき何とか日々過ごしております。

この度は貴重な機会をいただきましたので、建設コンサルタントとして働いていて感じたことを記したいと思います。

2. 経験した業務を通して

私はこれまで、主に水害リスクマップ検討業務、流域水害対策計画の検討などに携わらせていただきました。学生の時に多少は耳にしたことのある業務であるものの、いざ自らが関わるとなると反省と失敗の連続で、上司の方々にご迷惑をおかけする場面もありました。

業務を通して特に痛感したこととしては、自分の仕事の意味や立場をよく考える習慣がまだできていないということです。自分の成果物がどのような形で利用されるのか、誰に対して発信するものなのかなどを意識できておらず、責任感が十分に持てませんでした。そうした反省を踏まえ、検討内容の相談や自己チェックなどをより重視するようにし、徐々にではありますがミスを減らす習慣がついてきたと思います。

学生までの見解を大きく変えさせられる日々であり、これからも仕事への取り組み方には気をつけていきたいほか、専門知識の習得を通して業務内容への理解を深めていかなければならないと考えています。

3. 新たな環境での生活

社会人になることで、業務に費やす時間が大半になり疲労を感じることも多いですが、新たな環境に身を置くことで以前にはなかった楽しさもあると感じます。私は学生時代まで関東地方にて暮らしていたので、東北支社に配属になることで初めて東北地方の土地柄や名産物に触れることができ、色々刺激を受けております。特にお酒には目が無い性格ですので、良い日本酒に出会える機会は仕事の活力になっています。

また、会社のサークル活動や飲み会に参加させていただくこともあります。社員間で仲を深める機会を得ることで、気分転換になるだけでなく、より仕事のしやすい環境になっていると実感します。

4. おわりに

入社してから早々と1年が経過しましたが、至らぬ点が山積みであり、今後も研鑽を積んでいく必要があります。

失敗した経験、関わってきた周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献できる人材を目指し、日々成長していきたいと思っています。



写真1：松島に旅行に行った際の写真



写真2：社員で飲み会に行った際の写真

技術士合格体験記

株式会社建設技術研究所 井上 智 晴

1. はじめに

この度、4回目の受験で「建設部門 道路」に合格いたしました。合格に至るまでの体験や試験対策について、ご紹介します。

2. 受験の動機

私は、異業種への転職であったため、転職後に一次試験からスタートし、二次試験の受験が可能になった時には、同年代の同僚の多くが技術士として活躍していました。先輩技術士の活躍を身近に感じ、私も早く同じ立場で仕事がしたいという思いから、受験に挑むことにしました。

3. 筆記試験

初受験は仕事や家庭を言い訳に、ほとんど無対策の受験でしたので、本格的な試験対策は2回目の受験から、4月～7月の受験勉強を3年繰り返して、合格することが出来ました。自身の経験を振り返ると以下の2点がうまくいったように思います。

○勉強時間の確保

平日は勉強時間の確保が困難でしたが、早く退勤できた日は短時間でもカフェに立ち寄って勉強、通勤時間にYouTubeの対策動画を見る等で試験に対する意識が薄まらないように注意しました。休日は、家族に頼んで最低一日は勉強日として、カフェで勉強を進めました。

○いいとこ取りによるアップデート

受験勉強は、参考書やWebサイト等の情報を基にした骨子表作りがメインでした。たまに気分転換として、講習会への参加や試験対策系のHPの閲覧等を行い、多くの情報に触れるとともに、モチベーションの維持に努めました。各所で収集した情報で使えそうと思ったネタは、作成済の骨子表のアップデートに使いました。

多くの情報に触れることで、ある程度類発する重要なテーマは頭に残りました。重要と感じたテーマの骨子表は、より丁寧にアップデートを繰り返しました。

また、それぞれの情報で一致する内容もあれば、異なる内容もあります。満点を目指す試験ではないのでと割り切って、自分なりに都合よく取舍選択をしました。

4. 口頭試験

口頭試験の日程は12月下旬だったため、準備期間が十分に取れたと思います。模擬試験を社内外で計4回受験しましたが、最初の模擬試験が11月下旬だったため、まずはそこに向けて一通りの想定問答を準備しました。

その後の1ヶ月間は、模擬試験結果や先輩技術士の助言等を参考に想定問答をアップデートしました。特に、近年の口頭試験ではコンピテンシーに関して直球で聞かれることが多い傾向があったことから、各コンピテンシーに対して2種類以上の回答を準備しました。

早めに準備を進めたことで、本試験の直前に準備不足で焦るような気持ちはなかったように思います。また、受験申込書の詳述業務に、リーダーシップの回答がしやすいようにと利害関係者が明確な業務を選んでいたことも良かったと感じます。

本番では、詳述業務に関して想定外の質問もありましたが、詳述業務の内容を細かく確認し直していたので柔軟に対応できたと思います。

5. おわりに

技術士資格を取得したことで、管理技術者として業務に携わる機会に恵まれています。仕事に対し、これまでとは違ったやりがいを感じる一方で、求められるものの違いに苦慮することも多く、更なる資質向上が必要だと感じています。引き続き自己研鑽に励んでいきます。

この場を借りて、ご指導して頂きました皆様、試験前に業務の負荷を軽減して下さった上司や同僚、協力してくれた家族に心より感謝を申し上げます。

技術士合格体験記

株式会社片平新日本技研 尾崎雅恒

1. はじめに

私は、建設部門「道路」を受験しました。初受験は、現在の勤め先に中途入社した36歳であり、9回目の受験で合格しました。

資格取得に向けた勉強方法は様々だと思いますが、古参受験者の準備や対策などを紹介させていただきます。

2. 受験申込書作成

業務経歴は、従事期間と業務内容に加え、口頭試験での質疑を考慮した記載がいいと思います。

私は、下段2つに2～3年以内の業務、上段3つに地位・職名および従事期間に偏りが生じない業務を記載しました。記載業務は、従事した業務の中で、印象が強い業務を選択しました。理由は、「印象が強い＝コミュニケーションもしくはリーダーシップに長けた」業務と考えたためです。

業務経歴の内容は、瞬時に業務概要がイメージできるように、2～3行ほど記載しました。1行程度の短文でも問題ありませんが、口頭試験で説明する際、面接官の内容理解がスムーズになると思います。私の口頭試験では、“詳述した業務以外で利害調整に取り組んだ事例”を問われました。回答の際、面接官が業務概要と照らし領く素振りが見られたので、業務内容を文章からも理解頂けたと思っています。

業務内容の詳細は、口頭試験における質疑応答テーマであるため、4つの資質能力（コミュニケーション、リーダーシップ、評価、マネジメント）をふまえて作成すると良いです。私は、詳述内容が粗末だったため、口頭試験までの手直しに苦労しました。

3. 筆記試験

筆記試験の知識は、国の施策（国土交通省HPなど）、道路構造令、関連雑誌などから得ました。筆記対策は、過去問題から出題傾向を練り、出題頻度が高いと予想した項目の想定問題と解答例を作成した後、手書きの練習をしました。

想定問題と解答例は、各問題に対し2～3つ作成

し、先輩技術士に査読して頂きました。作成数は、査読後の修正、手書きの練習、および仕事などの両立をふまえると、これが限界と思います。

解答例の作成は、試験一ヶ月前までとしました。これは、丁寧な文字を書くことと正確な漢字を覚えるための時間に費やしたかったからです。また、書くことは、文章構成や表現の暗記に繋がりました。

最後に私見となりますが、筆記試験の解答方法は、①勉強したキーワードを基に肉付けする、②事前準備した解答例を基に作成する、の2パターンです。前者は、国語力が高い受験者向きであり、骨子を作成する訓練が試験対策と思います。後者は、国語力が人並みと感じる受験者向きであり、私のように事前準備を行うことが試験対策と思います。

4. 口頭試験

私の口頭試験は、筆記試験合格発表から約一ヶ月半後でした。その期間の試験対策は、想定問答の作成、業務内容詳細の手直し、社内模擬面接（2回）をしました。

想定問答は、同じ科目に昨年合格した技術士の助言を基に作成し、声に出し繰り返し練習しました。業務内容詳細の手直しは、数人の先輩技術士に助力頂きました。この手直しが、最も苦勞し時間を要したと同時に、受験申込書を甘く見たツケと後悔しています。社内模擬面接は、自身の練習不足と緊張から、散々な結果でした。

本番は、想定問答の繰り返し練習や模擬面接の失敗で吹っ切れたことから、焦らず受け答えができました。

5. おわりに

技術士試験は、長丁場の試験です。勉強時間とモチベーションの確保が重要と感じました。

今後は、管理技術者として業務を受注し、社会資本整備に貢献していきたいと思っています。

この場をお借りして、お忙しい中、ご指導頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

技術士合格体験記

株式会社復建技術コンサルタント 近藤 祐太

1. はじめに

私は、5回目の受験にあたる令和5年度 技術士第二次試験において「上下水道部門 上水道及び工業用水道」に合格いたしました。

技術士取得に向けた勉強方法は様々で、部門によっても異なると思います。ここでは私の体験談として合格に向けて準備、対策した内容をご紹介します。

2. 受験申込書作成

申込書作成では、厳しい字数制限がある「業務内容の詳細」への記載内容整理に注力しました。特に、口頭試験を見据えて、技術士として求められるコンピテンシーを踏まえた内容としつつ、その中で問題点をどのように考え、それに対する解決策はどのように計画し、解決策実施に伴うステークホルダーとの利害調整はどのように図ったかを簡潔に記載しました。

3. 筆記試験

技術士第二次試験の受験にあたり、社外の受験対策セミナーを受講し、筆記試験の対策を行いました。加えて、業界誌の購読や過去の合格事例集の閲覧を通じて、トレンドトピックスの情報収集やキーワードの整理を行いました。

問題ⅠおよびⅢについては、トレンドトピックスに対する解答の骨子表を作成して解答案を添削いただき、簡潔かつ的確な表現となるよう論文のブラッシュアップを図りました。骨子表作成における課題抽出にあたっては、ヒト・モノ・カネ・基本情報など観点が重複しないよう1トピックにつき課題を5つ程度挙げ、どの課題からでも論述できるよう解答案の充実化を図りました。また、問題の意味をはき違えないよう、問題文を繰り返し読み、問題点を捉えるよう心掛けました。

問題Ⅱについては、専門技術の知識量に左右されるため、合格事例集を多数読んでキーワードの抽出・整理を行うとともに、普段の業務における計画立案や検討手順を意識し、問題文に記載されている付与条件から想定される問題点を抽出しての解答を心掛けました。

また、今回の試験では、「技術士試験に関わる個人情報の開示」制度を利用し、前回受験時に不合格となった筆記試験の成績を点数として把握することで、問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの勉強時間の配分を調整しました。

4. 口頭試験

口頭試験では、これまで積み重ねた努力を無駄にできない、ここまで指導していただいた方に申し訳ない、ここで落ちたら次は無いかもしいかなという重圧から、筆記試験よりも辛く厳しいと感じました。

試験対策としては、受験申込書に記載した業務を評価のポイントに合わせて徹底的に掘り下げて、他部門の質問事例も踏まえて想定問答を作成しました。また、面接試験に向けて社内外で可能な限り模擬面接を実施し、回答に焦らないよう訓練しました。加えて、自宅では声に出して回答を暗唱して想定問答の暗記にも努めました。

試験前日までは体調を崩すほど緊張しておりましたが、当日、試験室に入室後はあまり緊張せず、準備した内容を落ち着いて答えることができました。

5. おわりに

今回合格できたのは、多くの方のご指導のおかげです。ここまで支えていただいた皆様に対し、心より感謝申し上げます。

今後も水道というライフラインの整備を通じて社会に貢献しつつ、自身の資質向上にも努めてまいります。



令和6年度 ICT 専門委員会「技術講習会」

技術部会 ICT 専門委員会
株式会社復建技術コンサルタント 市川 健

1. 日時・場所等

- ・令和6年6月19日（水）13：30～15：00
- ・トラスシティ・カンファレンス・仙台5F
- ・講習会形式・参加者数 対面方式、44名
- ・主催：技術部会ICT専門委員会
- ・主旨：担当技術者の技術力向上を目的とし、BIM/CIMをテーマとした講習会を開催しております。

2. 講習題目と講師

- ・題目：BIM/CIMの概要と話題提供（入門編）
- ・講師：株式会社オリエンタルコンサルタンツ
関西支社 DX推進本部 三住 泰之 氏



写真1 三住氏

3. 講習会の内容

講習会は「BIM/CIMとは」といった基本から始まり「BIM/CIMモデル・ソフトの種類」、「属性情報・参照資料」、「BIM/CIMモデルの詳細度・使い方」、「橋梁モデルの作成事例」など、これからBIM/CIMに挑戦する方にマッチした内容でした。

また講義の合間に複数回の質疑応答時間を設けるなど、聴講者を飽きさせない工夫がなされていました。

スライドに実作業の動画を挿入、また会場で講師自らがCADソフトを操作し、3Dモデルを作成するなど、BIM/CIMがより身近に感じられる講習内容でした。



写真2 会場の様子

4. おわりに

ICT専門委員会は2019年に新設された委員会です。コロナ禍の影響もあり、今回が対面で実施する初めての技術講習会でした。ご多忙のなか参加くださった会員の皆さま、遠方にも関わらず快く講師を引き受けてくださった三住様、CPD申請から当日の受付までを強くサポートしてくださった東北支部事務局および委員各位に深謝いたします。今後も支部会員の皆さまの技術力向上の一助となるような講習会を企画していきたいと考えます。



写真3 受付の様子

第22回（令和5年度）高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告

総務部会長

株式会社長大 長 南 憲 一

1. はじめに

高校生「橋梁模型」作品発表会は、平成14年度から毎年開催され、令和5年度で22回目の開催となります。第1回目は宮城県内の土木系学科からの応募でしたが、現在は東北6県の高等学校及び高等専門学校からの参加となっています。

令和5年までの応募作品数は843作品、応募学校は延べ407校となっております。

本発表会は、未来の技術者である高校生を対象に、橋の模型作りの体験（楽しさ、創意工夫）を通じて、橋の知識の習得とともに、社会を支える基盤となる橋等の土木構造物への理解を深めて頂くことを目的に開催されております。

2. 作品の応募要項

応募作品には「作品の課題」と部門毎の規定が設定されています。

■作品の課題

【模型部門】

- ① 国内外を問わず実在する橋の模型
- ② 国内外を問わず過去に存在した橋の模型
- ③ 実際にはない形式・構造の橋、夢のある橋の模型

◇作品寸法

長さ 1.5m以下、平面積(土台含む) 0.6㎡以下、
高さ 1.0m以下、重さ 10kg以下

【デジタル部門】

- ① 国内外を問わず実在する橋の3D-CADデータ
- ② 国内外を問わず過去に存在した橋の3D-CADデータ
- ③ 実際にはない形式・構造の橋、夢のある橋の3D-CADデータ

3. 建設コンサルタンツ協会の担当役割

建設コンサルタンツ協会総務部会は、実行委員会として協力を行いました。実行委員会は、国土交通省東北地方整備局東北技術事務所を事務局とし、令和5年度より国土交通省東北地方整備局東北道路メンテナンスセンター及び建設コンサルタンツ協会の他4団体で組織され、第1回で前年の実施報告、今年度の実施(案)の議題について審議し、第2回では作品の申込状況や審査員の推薦依頼を受けます。

4. 審査方法

今年は令和6年1月23日に一次審査会を東北技術事務所で開催しました。審査員の構成は、審査委員長を東北学院大学工学部武田教授、審査員は各構成団体より1名となっており、我々建設コンサルタンツ協会は例年技術部会にお願いをさせて頂いております。

今回は東北5県の14高校から20作品の応募がありました。一次審査では、「構造」「外観」「アイデア」を観点に、審査・評価します。二次審査では、一次審査の審査結果に、二次審査会へ来場された一般参加者の投票を加点し、更に実行委員会より選出された審査員の作品プレゼンテーションの評価が加点された合計の平均をもとに審査・評価します。これまでの審査は上記3つの観点からなる得点を合計した「総合(合計)得点」により行ってきましたが、より模型の個性を評価できる各部門の第1位から第3位までの作品に賞を授与します。

- ① 最優秀賞(総合優勝) 1作品構造+外観+アイデア+製作プレゼンテーションを含めた総合評価の最高位
- ② ストラクチャル大賞(構造部門) 3作品
- ③ ビジュアル大賞(外観部門) 3作品

- ④ アイデア大賞（アイデア部門）3作品
 - ⑤ イマジネーション大賞（想像橋部門）1作品
 - ⑥ デジタル大賞（CAD動画・データのみ提出限定部門）1作品
 - ⑦ 模型製作プレゼンテーション大賞（プレゼン発表）2作品
 - ⑧ 審査員特別賞（特別賞）1作品
 - ⑨ 入賞 該当作品数は変動
 - ⑩ 奨励賞（ニューフェイス賞）1作品
- ※②、③、④、⑦は重複受賞あり。

5. 作品発表会

令和5年度（2023年度）高校生「橋梁模型」作品発表会は令和6年2月15日に4年ぶりに会場（せんだいメディアテーク オープンスクエア）で開催、新型コロナウイルス感染症の5類感染症に移行後ということも相まって、一般の方に多数ご来場と審査投票にご参加いただきました。当日来場できなかつた高校はWEBを活用してプレゼン発表を行うなど実開催とWEB活用のハイブリッド方式としました。



写真：1 会場全景

当日は実行委員長の開会あいさつから始まり、参加各校による「プレゼンテーション」、（一社）橋梁調査会の企画課長を講師に迎えての「特別講演」などが開催されました。審査結果発表では20作品のうち、実在橋が20作品、入選は実在橋の12作品となりました。デジタル部門の応募も1作品ありました。

受賞の喜びを身体全体で表している姿や表彰状授与での製作者による受賞コメント、審査員長からは受賞

全作品に及ぶ丁寧な審査講評、参加者の笑顔あふれる記念撮影と、充実した内容で開催されました。



写真：2 記念撮影

6. おわりに

高校生「橋梁模型」発表会は現在22回目まで実施されてきました。令和6年度も実施される予定で進められております。

平成14年度から現在まで、建設関連業を目指す学生が、より建設業に興味を持てるような発表会は素晴らしい取り組みであり、参加させて頂けることに感謝いたします。

建設コンサルタント協会東北支部と致しましても、近い将来の建設業を、また未来を担う若い技術者がさらに建設業に興味をもって頂けるよう、継続した活動を通じて努力して参りたいと思います。

また、入賞作品については令和6年6月5日（水）から6日（木）に夢メッセみやぎで開催された「建設技術公開EE東北24」においてたくさんの来場者に橋梁模型作品を見ていただきました。

なお、第22回（令和5年度）高校生「橋梁模型」の素晴らしい作品集は、下記のURLからご覧下さい。

※）国交省東北地方整備局東北事務所ホームページ内
第22回（令和5年度）高校生「橋梁模型」作品集
<https://www.thr.mlit.go.jp/tougi/kyoryomokei/R6/index.html>



『地域や時代のニーズに応える企業』を目指して

エコウコンサルタンツ株式会社 代表取締役 山内 一 晃

1. 我が社の歩み

弊社は、昭和58年(1983)11月青森県八戸市に測量調査を主体とする「根本測量設計株式会社」として創業致しました。

その後業務面では、平成4年(1992)12月補償コンサルタント登録、平成5年(1993)3月建設コンサルタント登録、5月一級建築士事務所登録、平成9年(1997)1月地質調査業登録を行い事業領域の拡大を図ってまいりました。

そして総合建設コンサルタントとしての事業拡大を目指し平成13年(2001)11月社名を現在の「エコウコンサルタンツ株式会社」と改め、お陰様で令和5年(2023年)11月15日に創立40周年を迎えることが出来ました。

2. 経営理念

近年、地球温暖化の影響と思われる豪雨災害の激甚化や地震災害の頻発に加え、高度成長期に整備されたインフラストラクチャーの老朽化対策が課題となっています。また、少子高齢化や人口減少に対応した既存ストックの有効活用、さらにはBIM/CIMやICT、AIなどの技術革新により建設産業の生産性の向上も求められています。

当社の経営理念である「努力・研鑽・栄光」の精神をモットーに人間としての向上はもちろんのこと、建設コンサルタント業務に携わる人々の技術力の向上とこの業務に従事することへの誇りおよび生きがいを醸成することを目標に日々邁進しております。

3. 取り組み

インフラ整備は、国民の生命と財産を守り、生活と経済を支える事業です。

建設コンサルタントの技術力はその業務に当たる主任技術者個人の知識、経験、創造力、さらにはその集団の統括力などに依存するところが大きく数年足らずで身につくものではありません。

現在われわれの享受しているインフラストラクチャーの大半は、戦後とくに昭和20年代(1950年代)

以降に建設されたものです。その日々変化する社会ニーズに対応できるようにUAV、GISや3DCADを導入、技術力向上についても年間計画やその他随時に教育を実施、資格取得に関わる全面的なバックアップなど物資・人材の両面から投資をしております。

また、少子高齢化等の厳しい状況に直面している我が国において、建設コンサルタントが今後も持続的に発展していくためには、将来における担い手の確保が何よりも重要です。とりわけ若者から選ばれる産業とするためにも「処遇改善」や「働き方改革」、「生産性向上」をより一層進めていかなければと考えます。

私が社長に就任したのは、平成21年(2009)6月なので今年で15年目になります。社長就任後に特に力を入れてきたことは「愛社精神の構築」と「福利厚生の実践」です。会社の創設日くらいは覚えましょうの目的で毎年「創立記念日を祝うパーティー」や「周年社内旅行」、おいしい肉をみんなで食べる「社内バーベキュー」、みんなで楽しく健康増進「パークゴルフ大会」など多彩なイベント開催しております。その他「健康経営優良法人2024」、「あおり働き方改革推進企業」、「あおりイクボス宣言企業」、「青森県健康経営事務所」等の認定をいただいております。

このように「社員を笑顔にする」ことも社長の仕事の一つだと捉えて取り組んでおります。その結果、社長就任当初は1人も居なかった20代の社員が現在では「若者の会」や「女性の会」を開催できるまでの人数になりました。

当社は離職率が低いと言われていることも自慢のひとつです。

4. おわりに

近年、総合建設コンサルタントとして様々な社会資本整備に携わり、多くの実績を積み重ねてまいりました。今後も「地域や時代のニーズに応えられる企業」を目指して、地域の発展に貢献してまいりたいと考えています。

何卒、ご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



櫻エンジニアリングを設立して

株式会社櫻エンジニアリング 代表取締役 大島 高昭

株式会社櫻エンジニアリングは平成29年8月29日に、大島高昭（私）を含めた5名で設立されました。前職の建設コンサルタント会社に勤務していた仲間との設立でした。

建設業及び建設コンサルタント関係の業界に30年以上係わってきた私の転機となったのは、平成23年3月の東日本大震災でした。地震の翌日から国や県・市町村からの応急依頼や相談に対応し、多くの震災復旧業務に携わり、復旧後も復興業務への対応により忙しい日々が続きました。

震災前までは、「顧客のニーズに応える」ことを信条として務めてきましたが、被害を受けたふるさとが再生していく様を目の当たりにし社会の復興の一役を担っているという自負が生まれ、「社会のニーズに応えることが最大の使命」という考えに至りました。

社会のニーズに応えるという考えは、社会で暮らす市民の安全を守ることであり、大きな意味で国土の発展に貢献し持続可能な社会を築いていくことであると考えています。そのような考えとともに、社員の多様性を受け入れ公平であり不和の無い会社を自ら作り、社会と社員のニーズに応えることの出来る理想の建設コンサルタント会社を運営したいと思ったことが会社設立のきっかけでした。

平成29年設立当初の4ヶ月間は、2DKのアパートで業務を行い、台所に置いた応接でお客様と商談して後日「台所で商談なんて大丈夫かと思いましたよ。」とお客様に苦笑されたことを思い出します。

令和元年5月に公共事業の初受注を果たし、その頃の社員数は私を含めて7名でした。令和元年には台風19号豪雨災害を経験し、災害対応での元請及び下請での不眠不休での災害査定測量設計にあたったことが思い出されます。公共事業への新規参入による業務増と災害対応で社員の気力も限界寸前で、その年の暮れの忘年会では1年を何とか乗り切った社員の安堵の涙

も見られました。令和2年2月には建設コンサルタント（下水道部門）の新規登録を行い、建設コンサルタント業として本格スタートを切ることが出来ました。

令和3年2月に、自社社屋建設を目指し現住所の島一丁目に移転し、プレハブ社屋で業務を行いながら、プレハブ協に現行社屋の建設に着手し同年11月に現行社屋が竣工しました。また令和3年8月には建設コンサルタント（鋼構造及びコンクリート）部門追加を行い、その頃の社員数は11名になっていました。

令和4年4月には、国土交通省東北地方整備局東北技術事務所（次年度より東北道路メンテナンスセンター）から令和4・5年度郡山・磐城管内橋梁点検業務を受注して、2年度に亘り、一般国道4号・6号・49号の橋梁約250橋の点検業務を行いました。当社にとって初の国発注業務であり、業務量の多さ・交通規制の難しさ・初めての夜間点検作業など、難題がいくつもありました。交通量の多い国道での点検作業とあって安全大会や安全パトロールなど安全管理にも精力を注ぎ、社員一丸となって2年間の業務を無事に完成することが出来ました。残念ながら6・7年度橋梁点検業務は受注する事は出来ませんでした。当社の橋梁点検技術は大いなる成長を果たすことが出来たと思っています。また、令和4年12月～令和6年3月には開成山公園等Park-PFI事業にPFI実施事業者の一員（開成山フロンティアパートナーズ）として地元郡山市の都市公園である開成山公園リニューアル事業に於いて管理技術者業務及び土木測量設計を担当するという、名誉であり貴重な経験をしました。

令和5年4月には初めての新規学卒者（大学卒1名）採用を行い、社会インフラを未来に引き継ぐために若い技術者を育てていかななくてはならないという新たな使命の喜びを感じました。また日頃から社員の技術力向上に力を入れ資格取得社内講習会を計画的に行い、同年3月には社員から技術士1名及びRCCM3名の合格者を出すことが出来ました。同年5月には建設コ

新規会員の紹介

ンサルタント（道路）の部門追加を行い、この頃の社員数は18名となりました。

令和6年3月にはかねてからの念願であった（一社）建設コンサルタンツ協会への入会を果たしました。同年4月には、新規学卒者4名（大学卒3名、専門学校卒1名）及びキャリア1名の採用を行うとともに、同年7月には技術士1名増員を行い、現在の社員数は23名です。社員数が増え手狭になり、現在社屋の増築工事を行っている最中であり、執務スペースを拡大するとともに、コンセントレーションエリアの確保・休憩時間を充実させる木と緑と櫻の空間・フリーアドレスエリア・DX化及びBIM/CIMに対応した設備の充実等、楽しく仕事の出来る環境の整備を図っています。

当社のような社歴の浅い、規模も小さい会社が何故、建設コンサルタンツ協会に入会するのかと疑問に思う方もいらっしゃると思います。私は、建設コンサルタント系団体の最高峰である、（一社）建設コンサルタンツ協会に社歴の浅いうちから入会し、建設コンサルタンツ協会活動で得られる知識を習得し、会社として（会社も私も社員も）成長・成熟を果たしていきたいと考えました。（鉄は熱いうちに打てという感じです。）また、建設コンサルタンツ協会の倫理要綱を折に触れ拝見させていただいて、倫理・法令・社会規範を重視する素晴らしい団体だと感じておりました。今後は建設コンサルタンツ協会の一員として、建設コンサルタンツ協会倫理要綱に基づき、皆様とともに活動させていただければと思っております。

最後になりますが、社是を御紹介させていただきます。

- ・社会インフラを未来に引き継ぐことを使命とし、まち・人・毎日の安心を支えます。
- ・お客様の求めるもの以上の満足を提供します。
- ・常に技術の研鑽に励み、後進を育て、インフラを守り続けます。
- ・多様性を受け入れ公平であることを大切にします。

以上の社是に基づき、安全・安心な社会の構築と健全な国土の発展に貢献し、社会インフラを未来に引き継ぐ使命を果たしていく所存です。



写真1：令和3年10月 プレハブ仮社屋の奥に社屋建設



写真2：現行社屋



写真3：令和6年8月 現行社屋の東側に増築社屋建設中

技術部会 地盤専門委員会紹介

技術部会 地盤専門委員長
川崎地質株式会社 榊原信夫

1. はじめに

建設コンサルタンツ協会東北支部技術部会の地盤専門委員会は、秋田県・岩手県・山形県・宮城県の建設コンサルタント企業より地質及び土質を専門とする、計16名の委員で組織されております。地盤専門委員会は、東日本大地震により、地盤災害対応の重要性が高まったことを背景として、平成23年に技術部会の5番目の専門委員会として発足されました。

2. 委員紹介

当委員会は以下の示すとおり地盤に精通した技術者の集まりであり、多岐にわたる問題に対応しています。

役職	氏名	所属会社
委員長	榊原 信夫	川崎地質(株)
副委員長	橋本 智雄	中央開発(株)
副委員長	早乙女 勉	日本工営(株)
委員	荒井 裕則	(株)千代田コンサルタント
委員	沖島 剛	(株)復建技術コンサルタント
委員	長岡 和広	アジア航測(株)
委員	橋本 直樹	川崎地質(株)
委員	細谷 健介	新和設計(株)
委員	山田 満秀	大日本ダイヤコンサルタント(株)
委員	依田 直樹	パシフィックコンサルタンツ(株)
委員	高津 茂樹	(株)建設技術研究所
委員	久賀 真一	基礎地盤コンサルタンツ(株)
委員	紺野 健一	(株)アースデザインコンサルタンツ
委員	佐々木健司	東邦技術(株)
委員	沖野 清隆	応用地質(株)
委員	澤田弦一郎	(株)エイト日本技術開発

3. 活動内容

地盤専門委員会は、各種構造物の設計の基礎となる地盤の調査・解析や災害対応を通じて、国土の保全、国民の安心安全の確保を目的として活動しています。具体的な活動は以下の通りです。

- ・国土交通省及び東北各県の研修会の講師：「地質調査方法、軟弱地盤解析、法面・地すべり対策工」について毎年多くの委員が講師を担当しています。
- ・技術士模擬面接官：応用理学地質分野と建設土質及び基礎分野の技術士筆記試験に合格した方を対象に、模擬面接を毎年実施しております。
- ・技術職員研修会：令和5年度は、元山形大学教授の八木先生に「バイオンダム地すべりと鶴岡市の地すべり災害」について学ぶところの多いご講演をいただきました。
- ・現地見学会：令和5年度は、「陸前高田市 東日本大震災 津波伝承館～気仙沼市 東日本大震災震災遺構・伝承館」を見学しました。語り部ガイドさんから当時の被災避難状況や復興に関する貴重な話を聞くことができました。
- ・災害対応：最近では、令和元年の東日本台風や令和4年の記録的短時間大雨において、宮城県の各地で多大な土砂災害が発生しました。河川災、道路災や災害関連緊急砂防事業の測量、調査、対策工設計等に対応し災害復旧に貢献しました。

4. おわりに

これまで、新型コロナウイルスの影響で開催できなかった、現地見学会や技術職員研修会を昨年度から再開できました。今後も委員会活動を通じて社会と協会に貢献するように努めますので、よろしく願いいたします。

東北支部若手の会の活動を通して感じる成長

株式会社昭和土木設計 作山裕貴

1. はじめに

2019年に入社し、2022年から建コン東北支部若手の会に加入して、今年で3年目になります。24名の若手の会メンバーの中でも在籍期間が長い方になり、その間、多くの活動に参加してきました。これまでの活動について振り返りつつ、若手の会での学びや体験と今年度の私の活動について述べたいと思います。

2. これまでの活動の振り返り

○加入当時（1年目）

前任からの「建コンの若手の会に入らない？」との誘いは、他社の方と話す機会が少なく、視野が狭いなど感じていた私には、絶好の機会でした。

実際に会議に参加してみると、若手の会全体で、活動を楽しんでいる印象を強く受けました。その年は、年度の途中からの加入だったこともあり、対外活動への参加ができなかったため、来年を心待ちにしていました。

○対外活動（2年目）

(1) オープンキャンパス

2023年度で最初の対外活動が日大工学部オープンキャンパスでした。高校生に最先端技術を体験してもらい、大学卒業後の仕事のイメージを持ってもらうことを目的とした活動です。同業種の同世代との交流に目を向けていた私にとって、展示に協力いただいた大学生との交流は、とても新鮮でした。DXに伴う授業の変化、建コン・ゼネコン・公務員の印象や仕事に対する思い等、普段聞く機会がない大学生の素直な声は、若手の会だからこそ聞けるものだと感じました。

(2) Assemble the Wakate in 盛岡

これまで参加した活動で最も印象深いのが本部若手の会との交流会です。一昨年から本部若手の会が主催しているこの活動は、各支部と協力し合い、業界を盛り上げていくことを目的としているものです。

ディスカッションでは、本部若手の会のアイデアの豊富さに圧倒され、自分の視野や捉え方が未熟だと感じつつも、楽しく刺激的な時間を過ごすことが出来ました。

3. 今年度の活動

今年度から、体制が大きく変わり、プロモーション（宣伝）WG、エンジニア（技術）WG、クライアント（顧客）WG、リクルート（学生）WG、クリエイティブ（創造）WGの5WGで活動しています。

これまで他のメンバーが主体となり企画・計画したイベントに参加していましたが、今年度は、クリエイティブWGに所属し、私がリーダーとなりプロジェクトを動かしています。今年が目玉企画は、「テレビでの広報活動」です。これまでの活動では、就活生や就活を控えた学生等、既に建設コンサルタントという職業を知っている方をターゲットに交流会やオープンキャンパスで広報活動を進めてきました。テレビ企画は、老若男女、幅広い層に建設コンサルタントという職業を知ってもらう機会をつくるために発案した企画になります。

受け手が全く知らない状態からスタートするので、どこから話を始めるのか、どの程度詳しく説明するか、興味をそそる内容になっているか等、伝えることの難しさに直面している最中ですが、メンバーのサポートを受けながら楽しく、映像の完成を目指しています。

4. おわりに

若手の会は、業務では得られない貴重な学びや経験ができ、私の成長を強く後押ししている場所の一つだと感じております。

最後に、私達の活動を支えていただいている建設コンサルタント協会東北支部の皆様には感謝いたします。



令和6年能登半島地震における能登町への支援活動

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 馬越正純

1. 報告概要

令和6年能登半島地震で被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

一般社団法人日本アセットマネジメント協会（以下、JAAM）は、石川県能登町と締結した「社会インフラのアセットマネジメントに関する協定書（令和3年11月30日）」に基づき、発災直後に能登町長から協力要請を受け、被災地の現地調査支援を行いました。

発災直後、JAAMにおいて緊急会議を開催し1月7日～14日に先遣隊として株式会社オリエンタルコンサルタンツが能登町へ入り、能登町職員と協働して被災状況の把握を行いました。その後、JAAMに加盟する建設コンサルタント等各社がリレー形式で現地に入り、総勢約30名が、2月中旬までの約2か月間、現地調査を中心に職員業務の支援を実施しました。

参加企業は以下の通りです。（リレー順）

- オリエンタルコンサルタンツ
- 八千代エンジニアリング
- 建設技術研究所
- 日本工営
- パシフィックコンサルタンツ
- パスコ
- 大日本ダイヤコンサルタント
- 長大
- 柿本商会

2. 経緯

JAAMは、能登町と協定締結以降、JAAMに加盟する建設コンサルタント等各社の技術者の派遣などインフラの調査等の支援を行ってきました。これまでの支援を通じて、町職員との信頼関係を築いてきたこともあり、発災後の1月2日に、町の担当職員からJAAM戸谷有一理事へ連絡があり、直ちに支援に向けた調整を開始しました。翌日の1月3日には、協定書に基づいた支援要請を受けました。同町には土木技術職員が数名しかおらず、地元の建設会社への道路啓開の指示や、避難所の運営などに手いっぱいとなり、被害調査などに人員を回せる余力はなく、4日

後の1月7日に第1陣が現地入りすることになりました。

3. 活動の起点

3.1. 現地調査と結果の集約

現地調査では、まず町道の主要路線の被災状況の把握及び記録から始めました。調査開始時点でリレー形式の支援が決定していたこともあり、記録をいかに効率的かつ効果的に後続の会社へ引き継ぐかを関係各社で議論し、第1陣で調査を実施するオリエンタルコンサルタンツが保有する地図情報クラウドサービス「SOCOCA（ソコカ）」を活用することになりました。その後、町の職員及びJAAM加盟の各社で情報を登録・共有することが可能となり、その効果も確認できました。

3.2. クラウドを利用したアプリの概要

SOCOCAは、現地で撮影した写真や各種情報をスマートフォンにて登録し、地図上での可視化やクラウドを通じて、事務所PCなどとリアルタイム共有を实



現するサービスです。インフラを中心とした日常管理や災害対応など幅広くご利用いただけるアプリです。

データの項目の設定は、ノーコードで行うことができるため、収集したい項目の設定には時間を要しません。基本設定であれば、約30分～1時間ほどで完了します。

3.3. アプリを活用した効果

クラウドを利用したプラットフォームとして情報共有を行うことにより、災害対応の効率化、高度化に寄与しました。

- ①情報収集・共有：現場のスマートフォンと役場のパソコンで現地状況のリアルタイムな共有が可能となり情報共有の効率化を図りました。
- ②情報の更新：応急措置等による状況変化も簡単に反映することが可能となり、迅速な意思決定の支援（効率化）に寄与しました。
- ③情報の引継ぎ：JAAM調査団がリレー形式で対応にあたりましたが、引き継ぎ作業が容易であり、情報伝達も確実（効率化・高度化）に行うことができました。
- ④情報活用：自動レポート作成機能（標準機能）により、デジカメで撮影した写真をExcelやWordに貼る作業などが不要となり、資料作成の効率化が可能となりました。

4. 主な活動内容

町道の被災概要がわかるにつれ、徐々に構造物の調査や住民の生活支援などにも活動を拡大していきました。

建設コンサルタント等各社がそれぞれの得意分野を活かし、ポールカメラを活用した橋梁の損傷調査や上下水道応急対応、避難箇所へのトイレの設置など、幅広い支援活動を行いました。



写真1：建設技術研究所（ポールカメラによる調査）



写真2：柿本商会（上下水道の応急処置）



写真3：長大（仮設トイレの設置）

5. 終わりに

今回の活動は、インフラに携わる技術者の使命感から各社のボランティアとして行われ、JAAM事務局を中心に多くの企業が連携することで一定の役割を果たすことができたと考えています。被災地におかれましては、まだまだ厳しい状況が続いており、引続き、様々なかたちで支援を行っていきたいと考えています。

「令和6年能登半島地震」TEC-FORCE 随行

株式会社ダイエツ 荒 信 三

令和6年1月1日元旦、石川県能登半島を襲った地震で被災された方々へ心からお見舞い申し上げます。

1. はじめに

石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6という規模の「能登半島地震」において、テックフォース班に帯同するUAV調査の支援要請が弊社仙台支店へ連絡が入った。要請に応じる事が決定すると人員の調整・宿泊先の手配など行動は迅速であった。

使用する機材は客先の要望・予想される場面を考慮して選定した。

使用UAV……DJI MATRICE 210 RTK V2
※カメラX7+Z30
DJI MAVIC3 ENTERPRISE

1月12日（金）指定された富山県富山市にあるテックフォース班の拠点北陸地方整備局富山防災センターへ出向き、テックフォース班長ならびに班員の方々と挨拶し、これからの作業内容・工程等の打合せを行った。

今回の支援要請2陣では、福島県富岡町にある「株式会社ふたば」と同様UAV調査を担当した。

この打合せは、東北地方整備局から出動のテックフォース班もUAV調査班2社も「チーム東北」として、安全で良い報告成果を得る決意の場であったと思う。



写真1：挨拶

写真2：打合せ

2. 移動（被災地まで移動時間5時間）

1月14日（日）宿泊先である金沢市を朝4時に出発し、集合先の珠洲市役所まで約5時間あまりを要した。主要道路である「のと里山海道」の一部通行止め・

う回路誘導、路面隆起・陥没による徐行速度に伴って、渋滞を余儀なくされた。

能登半島のような地形では、主要道路がダメになると被災地の救助・物資補給も頓拍する様を目の当たりにした。



写真3：う回路で渋滞

能登半島を奥に進むにつれて、メディアで知り得た情報だけでは済まされなく、倒壊した家屋・津波に流された車両など厳しい現状に移動している車の中で言葉も少なくなる。

3. 現地調査その1

（崩落した土砂脇を徒歩で移動）

能登半島先端である珠洲市狼煙町を經由し、高屋地区までは途中から落石などで通行不能につき機材を担ぎ徒歩による移動を強いられた。

滑落した背丈以上の落石を横に、さらに崩落した土砂脇を不安定に歩き、何かつかまりながらでない滑落しそうになり、油断できない緊張を感じた。

調査箇所は、日本海に面した集落の裏山で、急傾斜崩壊危険区域として指定されており、対策工もなされているが高さ80m山頂部から山尻まで大規模に崩落し、民家は直撃を逃れたが、更なる崩落も懸念される。

UAV撮影前にテックフォース班長より重点事項の指示を頂き、移動・準備に費やした時間を気にしながらUAV飛行を行った。

飛行時には、何処からともなく接近するヘリコプターの飛行もあり、恐らく自衛隊機だと予想するが、UAV撮影を一時中止し、支障のない高度まで降下する場面もあった。

撮影した静止画500枚からsfmによる点群モデルを作成し、被災地全体を把握できるデータを提出した。

作成した点群モデルから崩落した高さ・幅・面積の算出により、任意の基準からの断面図作成・崩落前の地表面を想定した流失した土量も算出可能とした。（写真4参照）

さらに全体を撮影した斜め写真は、崩落地を上から下にUAVを飛行させながら流し撮りを行った。(写真5参照)

このようなデータはテックフォース班で一つの報告書にまとめ上げて、翌日県庁への報告に使われると教えていただき、不謹慎であるが少し誇らしく思う。

懸念していた海岸特有の強風などの気象変化も撮影時は夕風にあたり、微風で安全に飛行出来た事も幸いした。



写真4：sfmによる点群モデル



写真5：UAVによる斜め写真

4. 現地調査その2 (奇岩獅子岩)

珠洲市折戸町にある「椿の展望台」上に特徴のある岩があり、崩落対策のコンクリートで根巻しているの、遠くから見ると白く光ったように目立つ。

「獅子岩」とgoogleマップに記載されているが、正式名ではないそうである。



写真6：獅子岩地図

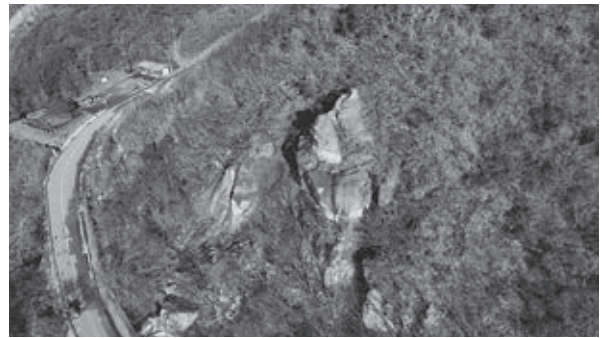


写真7：獅子岩

この岩は問題ないが、直下の岩肌が丸ごと崩落して県道28号大谷狼煙飯田線（奥能登絶景海道）の道路上に全長8m高さ3mの巨岩が崩落により通行止めである。

現地は「能登半島国定公園」に指定されており、「椿の展望台」から眺望する絶景は見ものである。

早期の復旧を望むが、これだけの巨岩を撤去する方策が案じられる。



写真8：崩落した巨岩

5. おわりに

1月12日から18日までの7日間（UAV調査は2日間）という短期間であったが、テックフォース班のUAV調査としての支援要請、私自身とても不安であった。

しかし、同行した同僚とコミュニケーションをとり、会社からの厚いバックアップを受け、何事もなく無事作業を終えた。さらに先日7月23日に東北地方整備局より支援に際し、国土交通行政関係功労者表彰式で感謝状を頂戴する運びになり、大変喜ばしく何よりであった。

この度は、大変貴重な体験をしました。

今後も起きうる災害に対応すべく、地域を代表する建設コンサルタント会社として、日々の研鑽に励みます。

この場をお借りして、同行させてもらったテックフォース班様・建設コンサルタント協会様ならびに関係者に厚く感謝申し上げます。

「令和6年能登半島地震」TEC-FORCE 随行

新和設計株式会社 飯澤 誠

令和6年（2024）1月1日に起きた石川県能登半島地震で被災された方々へ心からのお見舞いを申し上げます。

1. はじめに

私たちは、令和6年能登半島地震に第1陣で派遣された東北地方整備局 広域TEC-FORCEの被災状況調査班（砂防）に帯同し、1月6日（土）から12日（金）まで活動致しました。調査箇所は能登半島先端の珠洲市狼煙新町と折戸町で、ここは震央に極めて近い箇所でした。UAVによる被災状況把握を目的としていましたが、降雪や強風によりUAV飛行を見合わせた日もあり、その際は目視による状況確認を実施しました。

UAV機は、悪天候も想定し小型機と防水防塵対応機を準備しました。

使用UAV：DJI MATRICE 300RTK（防水防塵構造）
DJI MAVIC3

2. 被災状況把握調査

2.1 被災地までの移動

TEC-FORCE隊とは金沢市内で合流し、珠洲市まで車両で移動しました。道中は、崩落等による片側交互通行箇所や路面隆起・陥没による徐行区間が連続しており、救助車両や緊急車両による渋滞もあり、片道5時間程度を要しました。



写真1：被災地までの道路状況

2.2 目視による被災状況の把握

現場初日は、珠洲市狼煙新町地内の急傾斜崩壊危険区域と地すべり防止区域の調査を行いました。降雪が著しいためUAVは使用しないで、目視による状況把握に変更しました。



写真2：指定区域の確認状況



写真3：目視による状況把握

2.3 UAVによる状況把握

翌日の珠洲市折戸町地内の急傾斜崩壊危険域の調査はUAVによる状況把握を実施しました。



写真4：UAV飛行前の機体確認状況

UAV飛行時に降雪はありませんでしたが風速が5m/s程度ありました。突発的な強風時は一時的なホバリングで待機し、飛行高度や飛行速度を変えながら状況把握を行いました。



写真5：UAVによる状況把握

UAV飛行の最中に、救急医療用ヘリコプターが接近してきました。私は速やかに緊急着陸を実行しようとしたのですが、救急医療用ヘリコプターは旋回しながらさらに接近し、UAV離着陸地点から約100mの所に着陸しました。私は、UAVの着陸は困難と判断し、安全確保のためにUAV機を海上方向へ逃避させて接触を回避しました。



写真6：接近する救急医療用ヘリコプター

平時のUAV飛行ではあり得ない状況に瞬時の判断が求められました。航空法では、ほかの航空機との衝突を防止するためにドローンが降下等の処置を行うとしております。その意図するところを理解し、状況に応じた的確な判断をくだし、速やかに操作することの重み、大切さを痛感いたしました。

緊急時を想定したUAV飛行を普段から念頭に置いておく必要があることを実感いたしました。

2.4 データの引き渡し

UAVで撮影した画像及び動画に関しては、データの確認等を実施し、データの引き渡しを行いました。



写真7：取得したデータの説明と引き渡し

3. おわりに

1月12日に引き継ぎを行い帰任致しました。7日間という短期間でしたがTEC-FORCEに帯同しUAV調査を主にした被災状況把握調査に従事し、大変貴重な体験を致しました。

後日、折戸川河口周辺の海底が隆起していたことを知りました。UAV画像を見直したところ、確かに水際が後退しており地震のすさまじさに改めて驚きました。

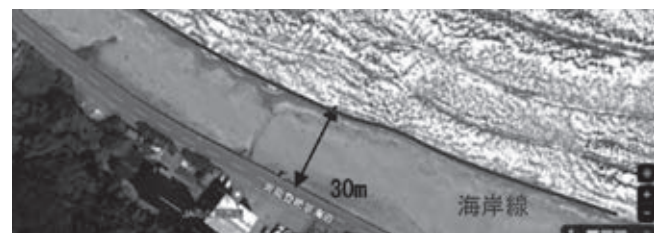


写真8：地震前の海岸線 (googleマップ)

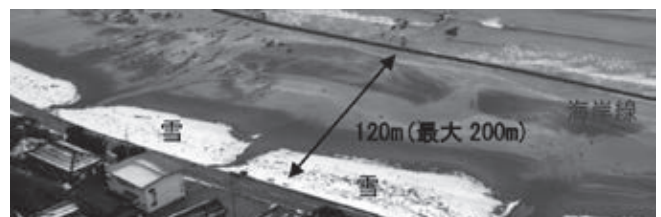


写真9：地震後の海岸線状況 (UAV画像)

今回の帯同支援が災害復旧の一助となりましたら幸甚に存じます。最後に、同行させて頂いたTEC-FORCEの被災状況調査班(砂防)様、建設コンサルタンツ協会東北支部様ならびに関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

令和6年度支部定時総会

4月23日(火) 14時から江陽グランドホテルにおいて令和6年度支部定時総会が開催されました。

会員108社中、出席71社、委任状30社、欠席7社で、出席合計が101社となり、過半数を超え総会は成立しました。



定時総会会場

冒頭、菅原支部長から挨拶をいただき議事に入りました。

議事は菅原支部長（議長）のもと、次の方々を議事録署名人として選出し議事に入りました。

（株）片平新日本技研 東北支店長 西川 貴志 様
（株）ドーコン 東北支店長 野田 敬一 様
続いて、議案の審議が次のとおり進められました。

(1) 令和5年度事業報告について

事務局長から「事業報告1. 一般」について説明続いて対活委員長、広報委員長、総務部会長、地域コン委員長、技術部会長、情報部会長から「事業報告2. 事業」についてそれぞれの部会・委員会の事業内容説明の後、満場一致をもって承認されました。

(2) 令和6年度事業計画

菅原支部長から令和6年度の事業の基本方針として、

- ①東北地方の社会資本整備の担い手として、東日本大震災被災地の復興・再生を今後も支援していくと共に、住民に豊かな生活、地域の安全・安心が保てる社会資本整備の必要性を訴えていく活動を継続します。
- ②魅力ある建設コンサルタントを目指し、受発注者協同による健全な労働環境の改善による働き方改革を実現し、担い手が集う環境の整備を進めます。
- ③近年の災害の激甚化・頻発化を踏まえて、災害協

定に基づく連携を強化するため、協定内容の見直しや訓練等を継続的に実施します。

- ④プロポーザル方式及び総合評価落札方式において、技術力を重視した方式や地域企業の参加可能な方式などを具体的に提案することにより、入札契約制度の改善を推進します。
- ⑤価格競争方式においては、地方自治体における低価格調査制度と失格基準の改善などを提案することにより、適正な競争制度の確立を目指します。
- ⑥会員企業が優良な技術と知恵を持続的に提供し続けるために、技術者育成と更なる技術力向上に取り組めます。
- ⑦現場見学会やレクリエーションなどリアルな会員交流の機会を増やすと共に、一般の方や学生の皆さんに向けて、建設コンサルタントの仕事や魅力について積極的に情報発信します。
- ⑧不当な取引制限や不当な低価格競争等を排除し、コンプライアンスを遵守します。

以上の提案があり、続いて、対活委員長、広報委員長、総務部会長、地域コン委員長、技術部会長、情報部会長からそれぞれの「事業計画」についての説明があり、満場一致をもって承認されました。

(3) 令和6年度収支予算について

事務局長から「収支予算」について報告の後、満場一致をもって承認されました。

(4) 令和5年度決算について

第1号議案 令和5年度決算及び令和5年度会計監査報告について

事務局長から「決算報告」について説明があり続いて会計監査について村上監事から収支決算書及び諸帳簿等を監査した結果「その内容は適正かつ正確である。」との報告が行われ、満場一致をもって本案は承認可決されました。



以上をもって令和6年度定時総会の議案全ての審議を終了しました。

9月2日「災害時対応演習」(リモート)を実施

建設コンサルタンツ協会では例年、「災害時行動計画」に基づく対応演習を実施しておりますが、今年も9月2日(月)に、大規模地震の発生を想定した演習が実施されることとなりました。

東北支部でも、この機会に独自の「令和6年度災害時対応演習計画」を作成し、対応演習を実施することといたしました。

今年も日本各地で大雨による災害等が多数発生しており、東北支部管内においても、7月下旬に東北地方の日本海側を中心に大雨となりました。

秋田や山形で大雨の影響により河川や道路の災害が多数発生し、東北地方整備局や県からの応援要請が相次ぎ、「災害協定」に基づき対応いたしました。

多数の会員の皆様からご協力をいただき、現地へ速やかな派遣を行うなどの対応にあたったところです。

このような状況は今後も各地で想定されることでもあり、本年度は中国地方(五日市断層)を震源とするマグニチュード7.0の地震が発生したとの想定のもと、中国支部に災害対策現地本部を設置し本部、現地本部及び支部をオンラインでつないで次の項目について演習を実施いたしました。

- 1) 災害対策支部の設置及び解散
- 2) 連絡対象会員からの被災状況の収集
(社員、社屋及び業務上に関わる被災等)
- 3) 調査員派遣対象会員との現地調査員派遣の協議
- 4) 災害対策本部との支部設置・解散等の連絡
- 5) 災害対策本部との現地調査員派遣要請対応
- 6) 発注機関(東北地方整備局)からの災害協定に基づく支援要請対応
- 7) 会員各社の独自計画に基づく演習、及び「災害発生時点検・確認事項一覧表」による点検等

なお、2) 3) 7) につきましては、東北支部独自の訓練として、あらかじめ選定した数社の会員様のご協力をいただき、支部に参集した役員と実際に電話やFAXによりやり取りを行ったものです。

会員の皆様におかれましては、今回の訓練をご参考としていただき、災害発生に備えて日頃から是非シミュレーション等していただきますようよろしくお願いいたします。

「連絡会員」及び「災害現地調査会員」にご指名されました会員各社には、ご多忙の中ご協力いただきありがとうございます。



連絡会員に被災状況を照会する災害対策東北支部員

連絡会員

朝日航洋(株)、エイコウコンサルタンツ(株)、応用地質(株)、(株)オオバ、(株)片平新日本技研、(株)郡山測量設計社、(株)櫻エンジニアリング、(株)三協技術、サンコーコンサルタント(株)、中央復建コンサルタンツ(株)、東京コンサルタンツ(株)、(株)トーニチコンサルタント、(株)ドーコン、(株)土木技研、(株)ニュージェック、(株)パスコ、(株)復建エンジニアリング、陸奥テックコンサルタント(株)

災害現地調査会員

(株)エイト日本技術開発、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)長大、日本工営(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)福山コンサルタント

令和6年7月の大雨に伴う「災害協定」対応状況について

7月23日頃から北日本に停滞した梅雨前線の影響で、東北地方の日本海側を中心に北日本から西日本で大雨となり、山形県では25日の昼過ぎと夜に線状降水帯が発生して大雨特別警報が2度発表されました。

また、東北地方を中心に、24日から26日にかけての3日間の降水量が400ミリを超えた地点や、平年の7月の月降水量を超えた地点があり、記録的な大雨となりました。

この大雨により、秋田県では負傷者2名、住家被害

267棟、山形県では死者3名、負傷者1名、住家被害1,144棟の被害がありました。(8/8内閣府の発表)

この大雨の影響により、秋田県、山形県内を中心に河川、道路等の災害が多数発生し、当支部と締結している「災害協定」に基づき、東北地方整備局、秋田県、山形県及び宮城県からの応援要請が相次ぎました。

対応状況は、下記一覧表のとおりとなります。(暫定版)

対応にあたられた会員の皆様には大変ありがとうございました。

「災害協定」に基づく対応状況一覧 (2407月 秋田・山形豪雨災害)

2024/9/13 17時00分現在 (暫定版)

付番	要請月日	依頼元担当部署	調査内容	担当会社数
1	7/25 (木)	東北地方整備局 秋田河川国道事務所	河川堤防被災状況調査等	1社で対応
2	7/29 (月)	秋田県 由利地域振興局	河川の被災状況調査、応急対策の調査・設計等	1社で対応
3	7/31 (水)	東北地方整備局 最上川ダム統合管理事務所	ダムの被災原因調査、復旧計画作成等	1社で対応
4	8/6 (火)	秋田県 由利地域振興局	河川の被災状況調査、応急対策の調査・設計等	2社で対応
5	8/6 (火)	秋田県 雄勝地域振興局 ※羽後町及び東成瀬村からの要請	①羽後町管内4河川・1町道 ②東成瀬村管内2村道 応急対策に係る調査・測量・設計等	それぞれ 1社で対応
6	8/9 (金)	宮城県 栗原地域事務所	道路の被災箇所の調査・測量・設計等	1社で対応
7	8/13 (火)	山形県 県土整備部	最上総合支庁管内土砂災害10箇所 災害査定に向けた調査・測量・設計等	3社で対応
8	8/19 (月)	秋田県 北秋田地域振興局 ※北秋田市からの要請	市道の災害査定用の測量・詳細設計・災害申請作成等	1社で対応
9	8/20 (火)	秋田県 建設部技術管理課	秋田県施設の路肩崩落、斜面崩落等の復旧に係る測量・設計業務等	1社で対応
10	8/21 (水)	秋田県 仙北地域振興局	2河川の被災状況調査・洪水量評価・整備方針検討等	1社で対応
11	8/21 (水)	秋田県 由利地域振興局	河川の被災状況調査・流量解析・整備方針検討等	1社で対応
12	8/21 (水)	山形県 県土整備部	庄内支庁管内土砂災害1箇所 災害査定に向けた調査・測量・設計業務等	1社で対応
13	8/22 (木)	秋田県 山本地域振興局	河川の被災状況調査・洪水氾濫解析・治水対策検討等	1社で対応
14	8/27 (火)	山形県 県土整備部	庄内支庁管内 河川災害5箇所 道路災害4箇所 災害査定に向けた調査・測量・設計業務等	3社で対応
15	9/12 (木)	秋田県 由利地域振興局 ※由利本荘市からの要請	市道の被災状況調査、応急対策の調査・設計等	1社で対応

コンプライアンス研修会

1. 日時：2024年9月12日 13:55～17:00
2. 場所：建設コンサルタンツ東北支部よりWEB配信
3. 共催団体名：
 - (一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部
 - (一社) 日本補償コンサルタント協会東北支部
 - (一社) 宮城県測量設計業協会
 - (一社) 東北測量設計協会
 - (一社) 東北地質調査業協会
 - (公社) 全国上下水道コンサルタント協会東北支部

4. 次第：
 - ・開会あいさつ 13:55～14:00
建設コンサルタンツ協会 菅原支部長
 - ・講話「入札談合と独占禁止法 建設関連業務と下請法等」
14:00～15:20
公正取引委員会 事務総局 東北事務所
東北事務所長 白石氏

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

- ・講話「生成AI活用の可能性  
～こんなことができる・ここに注意～」  
15:30～16:50  
宮城県産業技術総合センター  
商品開発支援班 上席主任研究員 伊藤氏
- ・開会および連絡 16:50～17:00

5. 受講者：715名（6団体合計）

6. 建コン東北支部担当者：
  - 事務局：淀川 政晴／小川 みゆき
  - 総務部会：長南 憲一／池田 達人  
遠藤 郁奈
  - 情報部会：猪野 晃

### 7. 講話風景（WEB画面）



【公正取引委員会 白石氏】



【宮城県産業技術総合センター 伊藤氏】

### 8. 講話概要

#### 入札談合と独占禁止法

入札談合や独占禁止法について、最新の違反事例を用いた分かり易い内容であった。また、違反措置について、排除措置命令以外の警告・注意・確約手続についても説明いただいた。

#### 生成AI活用の可能性

生成AIの概要、活用の可能性、課題、および具体的な使用例をわかりやすく紹介いただいた。Chat GPTや他の生成AIツールが具体例として取り上げられ、業務への導入時に必要な注意点、著作権やリスク管理の重要性についても説明をいただいた。

以上

## [支部だより]

4月4日(木)

令和5年度会計監査  
場 所／支部会議室

4月9日(火)

第1回役員会  
議 題／(1) 令和6年度支部定時総会について  
(2) 各分会・委員会からの報告  
(3) そ の 他

4月19日(金)

第1回若手の会(集合及びWeb会議)

4月23日(火)

令和6年度支部定時総会  
場 所／江陽グランドホテル  
議 題／(1) 令和5年度事業報告について  
(2) 令和6年度事業計画について  
(3) 令和6年度収支予算書について  
(4) 令和5年度決算報告について  
そ の 他  
会員 108社中 出席 71社 委任状 30社 欠席 7社

4月23日(火)

定時総会懇談会  
場 所／江陽グランドホテル  
演 題／「令和6年度能登半島地震における東北地整  
の支援状況等について」  
東北地方整備局 総括防災調整官 齋藤 茂則 氏

4月23日(火)

定時総会懇談会  
場 所／江陽グランドホテル  
主 催 総務部会 参加者 160名

4月24日(水)

技術部会(構造専門委員会)

5月14日(火)

第1回広報委員会  
議 題／(1) 令和6年度講演会について  
(2) そ の 他

5月16日(木)

第1回情報部会(Web会議)  
議 題／(1) 令和6年度事業計画について  
(2) 講習会の開催方式について  
(3) そ の 他

5月17日(金)

第2回若手の会(集合及びWeb会議)

5月21日(火)

第2回役員会  
議 題／(1) 意見交換会について  
(2) 各分会・委員会からの報告  
(3) そ の 他

5月28日(火)

宮城県建設センター「土木構造物設計研修」  
へ講師派遣  
講 師／石井 一人(パシフィックC株)

5月29日(水)

技術部会総会  
場 所／TKPガーデンパレス仙台勾当台  
議 題／(1) 令和5年度各専門委員会活動報告  
(2) 令和6年度技術部会事業計画(案)及び  
予算  
(3) 大学等へのプレゼン計画、その他

6月4日(火)

第1回地域コン委員会  
議 題／(1) 本部地域コン委員会の報告  
(2) 東北地整、東北6県の入札契約制度状況  
(3) 担い手確保・育成活動  
(4) そ の 他

6月4日(火)～5日(水)

青森県建設技術センター令和5年度「土質研修会」  
へ講師派遣  
講 師／沖野 清隆(応用地質株)  
山田 満秀(株ダイヤC)  
早乙女 勉(日本工営株)  
細谷 健介(新和設計株)

6月5日(水)～6日(木)

EE東北'24(参集及びWeb開催)

場所/夢メッセみやぎ

来場者 2日間延べ人数 17,100名

出展者 378/技術数 958

(建コン支部会員 出展者 50/技術数 115)

学生等向け出展企業等を紹介する「学生&企業交流ひろば」に支部のブースを設置

6月18日(火)

第1回対外活動委員会(Web会議)

議題/ (1) 意見交換会について

(2) 令和6年度要望と提案について

(3) その他

6月19日(水)

ICT専門委員会「技術講習会」

場所/トラストシティカンファレンス・仙台

主催 技術部会ICT専門委員会 受講者44名

6月19日(水)

宮城県建設センター「土質設計研修」へ講師派遣

講師/沖野 清隆(応用地質株)

山田 満秀(大日本ダイヤC株)

6月25日(火)

第3回役員会

議題/ (1) 東北ブロック意見交換会について

(2) 各県との意見交換会について

(3) その他

6月26日(水)

インフラメンテナンス専門委員会

6月28日(金)

ふくしま市町村支援機構「成果品のエラー防止に

ついて(土木)」へ講師派遣

講師/石井 一人(パシフィックC株)

7月2日(火)～4日(木)

ふくしま市町村支援機構「トンネルと地盤調査」

「地盤調査と橋梁設計」「橋梁上部工の設計演習」

「橋梁下部工及び基礎工の設計演習」へ講師派遣

講師/松山 一昭(大日本ダイヤC株)

高津 茂樹(株建設技術研究所)

石井 一人(パシフィックC株)

7月10日(水)～26日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」へ講師派遣

講師/安藤 誠(株オリエンタルC)

早乙女 勉(日本工営株)

細谷 健介(新和設計株)

向江 正夫(株東京建設C)

7月11日(木)

ふくしま市町村支援機構「BIM/CIM(土木)について」

へ講師派遣

講師/佐久間 謙史(パシフィックC株)

7月17日(水)

第2回情報部会(Web会議)

議題/ (1) GIS講習会について

(2) 各WGからの報告について

(3) その他

7月18日(木)

第4回役員会

議題/ (1) 東北ブロック意見交換会について

(2) 各県意見交換会について

(3) その他

7月25日(木)

東北ブロック(本部・整備局)意見交換会

東北地方整備局 安岡副局長 他11名

本部 中村会長 他14名

支部 菅原支部長 他14名

議題

1. 担い手確保・育成のための環境整備

2. 技術力による選定

3. 品質の確保・向上

4. 災害対応に向けた環境改善

5. DX推進の環境整備

8月6日(火)

道路専門委員会「電線共同溝勉強会」(Web併用)

場所/株オリエンタルC東北支社 大会議室

主催 技術部会道路専門委員会

受講者 22名、Web 32名

8月7日(水)

構造専門委員会「現場見学会」

見学場所/南小泉茂庭線 宮沢橋上部工工事

主催 技術部会構造専門委員会 参加者30名

8月21日(水)

第2回対外活動委員会

- 議 題／(1) 意見交換会について  
(2) 令和6年度要望と提案について  
(3) そ の 他

8月22日(木)

青森県建設技術センター「土質研修会」へ講師派遣  
講 師／岡田 範彦 (株)ニュージェック)

8月23日(金)

第3回若手の会(集合及びWeb会議)

8月27日(火)

経営者委員会(社長会)

場 所／パレスへいあん

- 議 題／(1) 本部地域コン委員会活動報告  
(2) 意見交換会について  
(3) そ の 他

講 話

①「最近の国土交通行政をめぐる話題」

講師：東北地方整備局企画部  
技術調整管理官 佐藤 彰 氏

8月29日(木)

仙台市「令和6年度第1回道路事業技術研修会」  
へ講師派遣

講 師／畑中 克好 (パシフィックC株)

8月30日(金)

GIS講習会(ArcGIS/初級編)[Web開催]

主 催 本部 情報部会ICT委員会ICT普及専門委員会  
支部 情報部会 受講者 23名

8月30日(金)

岩手県土木技術振興協会「橋梁技術研修(橋梁メン  
テナンス)」へ講師派遣

講 師／石橋 努 (株)復建技術C)

9月2日(月)

災害時対応演習[11:00~14:30]

11:00中国支部管内においてマグニチュード7.0の大規模地震が発生し、災害対策東北支部を設置したとの想定で災害対策支部員を招集、本部・各支部とWeb会議にて演習を行った。

会員の被災状況を把握するため、予め決めていた連絡会員会社18社へ携帯電話により被害状況照会、会員より被害状況をFAXで受信。

また、被災現地への派遣のため、予め決めていた災害現地調査派遣会員6社と協議・派遣等の訓練を実施した。

9月10日(火)~13(金)

岩手県土木技術専門研修「第1期地質調査、道路  
計画、河川計画」へ講師派遣

講 師／山田 満秀 (大日本ダイヤC株)  
榊原 信夫 (川崎地質株)  
今野 篤 (株)東京建設C)  
村上 幸治 (エイト日本技術開発)  
栗田 俊一 (株)復建技術C)  
鈴木 隆 (株)アースデザインC)

9月12日(木)

第2回広報委員会

- 議 題／(1) 令和6年度講演会について  
(2) JCCA TOHOKUの編集について  
(3) そ の 他

9月12日(木)

令和6年度コンプライアンス研修会(Web配信)

場 所／事務局会議室

講 師／公正取引委員会事務総局

東北事務所長 白石 文男 氏  
宮城県産業技術総合センター商品開発支援班  
上席主任研究員 伊藤 利憲 氏

主 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、  
(一社)宮城県測量設計業協会、  
(一社)日本補償コンサルタント協会東北支部、  
(公社)全国上下水道コンサルタント協会東北支部、  
(一社)東北測量設計協会、  
(一社)東北地質調査業協会 6団体の共催  
出席者 約715名(建コン会員 288名)

## 支部だより

9月17日(火)～18日(水)

CIMハンズオン講習会

場 所/ PARM-CITY131 貸会議室 4A

共 催 本部 情報部会 ICT委員会 CIM技術専門委員会  
支部 情報部会 受講者 両日 各15名

9月18日(水)

令和6年度「道路・構造専門委員会合同技術講習会」

場 所/ ハーネル仙台

主 催 技術部会 道路専門委員会・構造専門委員会  
受講者 48名

9月18日(水)

宮城県土木部職員研修「軟弱地盤・斜面安定対策  
研修」へ講師派遣

講 師/ 細谷 健介 (新和設計株)  
佐々木健司 (東邦技術株)

9月18日(水)

ふくしま市町村支援機構「劣化のメカニズムと予防  
保全方法 (メタル)」へ講師派遣

講 師/ 三浦 俊史 (株協和C)

9月19日(木)

情報部会 (Web会議)

議 題/ (1) GIS講習会及びCIMハンズオン講習会に  
ついて  
(2) 各WGからの報告  
(3) そ の 他

9月20日(金)

第4回若手の会 (集合及びWeb会議)

9月24日(火)～27(金)

岩手県土木技術専門研修「第2期地質調査、道路  
計画、河川計画」へ講師派遣

講 師/ 山田 満秀 (大日本ダイヤC株)  
榊原 信夫 (川崎地質株)  
恵美 進一 (八千代E株)  
佐藤 亮 (株アースデザインC)  
東山 泰治 (中央C株)  
佐々木 勝 (サンコーC株)

9月26日(木)

第5回役員会

議 題/ (1) 支部役員の選任について  
(2) 各県との意見交換会について  
(3) そ の 他

9月26日(木)

山形県「建設マネジメント研修Ⅱ (応用編)」

へ講師派遣

講 師/ 川上 浩一、佐藤 拓弥 (セントラルC株)

9月26日(木)

宮城県土木部職員研修「橋梁設計研修 (LIVE併用型)」

へ講師派遣

講 師/ 石井 一人 (パシフィックC株)

9月27日(金)

若手の会定例会 in 山形

# 令和6年度 講演会

令和6年11月25日(月)13:20~17:00

(12:40 受付開始)

テーマ

## 「スポーツを核としたまちづくり」

【講演者の皆様】



©VEGALTA SENDAI

梁 勇基氏

ベガルタ仙台  
クラブコーディネーター



©VEGALTA SENDAI

富田 晋伍氏

ベガルタ仙台  
クラブコミュニケーター



石橋 敏行氏

八戸市 都市整備部次長



銀 次氏

元 東北楽天ゴールデンイーグルス

※(プログラム、演題はウラ面をご覧ください。)

**会場** トークネットホール仙台(仙台市民会館) 小ホール

**参加対象者** どなたでもご参加いただけます。  
(下記より事前申し込みをお願いします。)

**参加費** 無料 **定員** 450名(先着順)

**申込方法・申込先** PC・スマホから「建設コンサルタンツ協会東北支部」HPの「講習会の案内」にアクセスし、同講演会の「参加予約フォーム」に入力しお申し込みください。なお、申し込みが完了しますと、登録したメールアドレスに完了メールが届きますので、受信できるように設定をお願いいたします。(フリーメールアドレスでの登録はできませんのでご了承ください。)

(サイトアドレス)

<https://jcca-tohoku.jp>

建コン 東北

検索

入場  
無料



**申込期日** 令和6年10月7日(月)11:00~令和6年11月1日(金)12:00

(定員になり次第締め切らせていただきます。)

**その他** 本講演会は、一般社団法人建設コンサルタンツ協会CPDプログラムとして認定予定です。

会場  
案内

トークネットホール  
仙台(仙台市民会館)

〒983-0823

仙台市青葉区桜ヶ岡公園4番1号

勾当台公園駅(2)から徒歩約10分  
大町西公園駅(西1)から徒歩約10分



主催/一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

後援/国土交通省東北地方整備局

河北新報社、日刊建設工業新聞社東北支社、  
日刊建設通信新聞社東北支社、建設新聞社、  
日本建設新聞社仙台総局

協賛/公益社団法人 土木学会東北支部

公益社団法人 日本技術士会東北本部

(順不同)

お問合せ

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

Tel.022-263-6820 E-mail:thinfo@th.jcca.or.jp

一般社団法人 建設コンサルタント協会 東北支部 会員名簿

会員 10月現在 108社

| 会社名                | 事業所名  | 郵便番号・住所                            | 電話番号          |
|--------------------|-------|------------------------------------|---------------|
| (株)アースデザインコンサルタンツ  | 本社    | 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8        | 0192-27-0835  |
| (株)アールバン設計         | 本社    | 〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26       | 024-961-7500  |
| (株)アサノ大成基礎エンジニアリング | 東北支社  | 〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6           | 022-343-8166  |
| 朝日航洋(株)            | 東北営業部 | 〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1           | 022-771-2382  |
| アジア航測(株)           | 仙台支店  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28          | 022-216-3553  |
| (株)東コンサルタンツ        | 本社    | 〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101          | 0246-23-8424  |
| (株)アルファ水工コンサルタンツ   | 仙台事務所 | 〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27            | 022-207-5300  |
| いであ(株)             | 東北支店  | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉3-4-43           | 022-263-6744  |
| (株)ウエスコ            | 東北事務所 | 〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8           | 022-797-5271  |
| (株)ウヌマ地域総研         | 本社    | 〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19         | 018-863-5809  |
| エイコウコンサルタンツ(株)     | 本社    | 〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字下亀子谷地11-2    | 0178-21-1511  |
| エイト技術(株)           | 本社    | 〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10           | 0178-47-2121  |
| (株)エイト日本技術開発       | 東北支社  | 〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161            | 022-712-3555  |
| (株)エース             | 仙台営業所 | 〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208      | 022-797-9718  |
| 応用地質(株)            | 東北事務所 | 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2         | 022-237-0471  |
| (株)オオバ             | 東北支店  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-2-13          | 022-261-8861  |
| (株)オリエンタルコンサルタンツ   | 東北支社  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1           | 022-215-5522  |
| 開発虎ノ門コンサルタンツ(株)    | 東北支店  | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24          | 022-292-5220  |
| (株)片平新日本技研         | 東北支店  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17         | 022-722-3130  |
| 川崎地質(株)            | 北日本支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16          | 022-792-6330  |
| 基礎地盤コンサルタンツ(株)     | 東北支社  | 〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23          | 022-291-4191  |
| キタイ設計(株)           | 東北支社  | 〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53          | 022-343-5416  |
| (株)キタコン            | 本社    | 〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1          | 0172-34-1758  |
| (株)キタック            | 仙台事務所 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37           | 022-265-1051  |
| (株)橋梁コンサルタンツ       | 東北事務所 | 〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14          | 024-953-3667  |
| (株)協和コンサルタンツ       | 東北支社  | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14          | 022-266-6073  |
| 協和設計(株)            | 東北支店  | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1           | 022-742-3711  |
| (株)近代設計            | 東北支社  | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12         | 022-207-2480  |
| (株)ケー・シー・エス        | 東北支社  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2           | 022-224-1591  |
| (株)建設環境研究所         | 東北支社  | 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11          | 022-706-4973  |
| (株)建設技術研究所         | 東北支社  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25          | 022-261-6861  |
| (株)コウキコンサルタンツ      | 本社    | 〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10 | 0241-24-2701  |
| (株)構研エンジニアリング      | 東北営業所 | 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203       | 022-344-6231  |
| (株)郡山測量設計社         | 本社    | 〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3        | 024-952-5200  |
| (株)国際開発コンサルタンツ     | 仙台支店  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-5-25          | 022-225-6201  |
| 国際航業(株)            | 東北支社  | 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45           | 022-299-2801  |
| 国土防災技術(株)          | 東北支社  | 〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1            | 022-216-2586  |
| (株)コサカ技研           | 本社    | 〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2      | 0178-27-3444  |
| (株)コンテック東日本        | 本社    | 〒030-0122 青森県青森市大字野尻字今田91-3        | 017-738-9346  |
| (株)寒河江測量設計事務所      | 本社    | 〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1      | 0237-86-5520  |
| (株)櫻エンジニアリング       | 本社    | 〒963-8034 福島県郡山市島1-22-30           | 024-953-6830  |
| (株)サトー技建           | 本社    | 〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1           | 022-262-3535  |
| (株)三協技術            | 本社    | 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14          | 022-224-5503  |
| 三協コンサルタンツ(株)       | 本社    | 〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1           | 023-655-5000  |
| サンコーコンサルタンツ(株)     | 東北支店  | 〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2            | 022-273-4448  |
| (株)三洋コンサルタンツ       | 岩手営業所 | 〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ5-16-34         | 019-645-6281  |
| (株)三和技術コンサルタンツ     | 本社    | 〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21          | 0237-55-3535  |
| 柴田工事調査(株)          | 本社    | 〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1         | 0183-73-7171  |
| (株)庄内測量設計舎         | 本社    | 〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9    | 0234-43-2459  |
| 昭和(株)              | 東北支社  | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1           | 022-742-5301  |
| (株)昭和土木設計          | 本社    | 〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23   | 019-638-6834  |
| (株)新星コンサルタンツ       | 東北支社  | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-11          | 050-5814-4959 |
| 新和設計(株)            | 本社    | 〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880            | 0238-22-1170  |
| (株)新和調査設計          | 本社    | 〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12            | 024-934-5311  |



| 会社名              | 事業所名  | 郵便番号・住所                        | 電話番号         |
|------------------|-------|--------------------------------|--------------|
| JR東日本コンサルタンツ(株)  | 東北支店  | 〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2      | 022-211-0872 |
| セントラルコンサルタンツ(株)  | 東北支社  | 〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21        | 022-264-1923 |
| (株)創研コンサルタンツ     | 本社    | 〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22       | 018-863-7121 |
| (株)総合技術コンサルタンツ   | 東北支店  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-15       | 022-268-4191 |
| 創和技術(株)          | 本社    | 〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7       | 018-863-4545 |
| (株)田村測量設計事務所     | 本社    | 〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3       | 023-642-6644 |
| 第一復建(株)          | 仙台事務所 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20       | 022-722-3701 |
| (株)ダイエツ          | 本社    | 〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53       | 0242-26-1253 |
| 大日コンサルタンツ(株)     | 仙台事務所 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30       | 022-225-5626 |
| 大日本ダイヤコンサルタンツ(株) | 東北支社  | 〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35       | 022-261-0404 |
| 大和工営(株)          | 本社    | 〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43 | 0233-22-2422 |
| (株)地圏総合コンサルタンツ   | 仙台支店  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25      | 022-261-6466 |
| 中央開発(株)          | 東北支店  | 〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6        | 022-766-9121 |
| (株)中央技術コンサルタンツ   | 東北支店  | 〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4       | 022-375-6787 |
| 中央コンサルタンツ(株)     | 仙台支店  | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27       | 022-722-2541 |
| 中央復建コンサルタンツ(株)   | 東北支社  | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7        | 022-267-1459 |
| 中電技術コンサルタンツ(株)   | 東北事務所 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15       | 022-397-8173 |
| (株)長大            | 仙台支社  | 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26       | 022-781-8628 |
| (株)千代田コンサルタンツ    | 東北支店  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2       | 022-214-6261 |
| (株)テイコク          | 東北支店  | 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-202   | 022-343-0956 |
| (株)東京建設コンサルタンツ   | 東北支社  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17     | 022-222-8887 |
| 東京コンサルタンツ(株)     | 東北支店  | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20      | 022-265-3891 |
| (株)東建工営          | 本社    | 〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7       | 022-383-9811 |
| (株)東光コンサルタンツ     | 仙台支店  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-8        | 022-264-1578 |
| (株)トーチコンサルタンツ    | 東北事務所 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30       | 022-262-0243 |
| (株)ドーコン          | 東北支店  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25      | 022-225-2860 |
| 東邦技術(株)          | 本社    | 〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13      | 0187-62-3511 |
| (株)東北開発コンサルタンツ   | 本社    | 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33      | 022-225-5661 |
| (株)東北構造社         | 本社    | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3        | 022-227-1877 |
| (株)土木技研          | 本社    | 〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20    | 019-638-8131 |
| 日栄地質測量設計(株)      | 本社    | 〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2     | 0246-21-3111 |
| (株)日水コン          | 東北支所  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3        | 022-222-1101 |
| (株)日本インシーク       | 東北支店  | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24      | 022-724-7530 |
| 日本工営(株)          | 仙台支店  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-8-20      | 022-227-3525 |
| 日本工営都市空間(株)      | 仙台支店  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22      | 022-716-6646 |
| (株)日本構造橋梁研究所     | 東北支社  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1       | 022-713-6657 |
| (株)日本港湾コンサルタンツ   | 東北事務所 | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5       | 022-215-9051 |
| 日本振興(株)          | 東北支店  | 〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3        | 022-797-0391 |
| (株)ニュージェック       | 東北支店  | 〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2        | 022-301-7611 |
| パシフィックコンサルタンツ(株) | 東北支社  | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1       | 022-302-3940 |
| (株)パスコ           | 東北事業部 | 〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1      | 022-299-9511 |
| (株)東日本建設コンサルタンツ  | 本社    | 〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5     | 0246-63-6063 |
| (株)福田水文センター      | 東北支店  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-17       | 022-281-8525 |
| (株)福山コンサルタンツ     | 東北支社  | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17       | 022-262-0118 |
| 富士コンサルタンツ(株)     | 仙台支店  | 〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20       | 022-395-6216 |
| (株)ふたば           | 本社    | 〒979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55        | 0240-22-0261 |
| (株)双葉建設コンサルタンツ   | 本社    | 〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399-11  | 0233-22-0891 |
| (株)復建エンジニアリング    | 東北支社  | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町11-11       | 022-267-2765 |
| (株)復建技術コンサルタンツ   | 本社    | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25       | 022-262-1234 |
| 復建調査設計(株)        | 東北支店  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1       | 022-723-5830 |
| 三井共同建設コンサルタンツ(株) | 東北支社  | 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26       | 022-296-1061 |
| 陸奥テックコンサルタンツ(株)  | 本社    | 〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18       | 024-922-2229 |
| 八千代エンジニアリング(株)   | 北日本支店 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23        | 022-261-8344 |
| (株)吉田測量設計        | 本社    | 〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-3-13       | 019-635-1740 |



## 編集後記

今年の夏も終わりに近づいていますが、東北地方においても猛暑や台風・豪雨の被害が発生しました。

ゲリラ豪雨・線状降水帯など、昔にはあまり聞いたことがないような気象現象が起こっており、気候変動が進んでいる様子が見て取れます。

建設コンサルタントである我々も、SDGsを意識した業務への取組みなど、社会に貢献できることを考えていかねばならない時代になっていると感じます。

一方で今夏はパリオリンピックが開催され、日本代表は金メダル数、メダル獲得総数において海外大会での最多を更新しました。金メダルの獲得数はアメリカ・中国に次ぐ第3位の好成績を残しました。

米メジャーリーグ・ドジャースの大谷翔平選手も、前人未到の1シーズン50本塁打・50盗塁まで目前に迫っており、明るい話題に連日勇気と感動を頂いているところです。

そんなスポーツの明るい話題が多い今年度、広報委員会では11月25日に「スポーツを核としたまちづくり」をテーマに講演会を開催いたします。

ベガルタ仙台のクラブコーディネーター「梁 勇基」様、同じくクラブコミュニケーターの「富田 晋伍」様、八戸市 都市整備部次長の「石橋 敏行」様、元東北楽天ゴールデンイーグルスの「銀次」様を講演者としてお招きし、サッカー・都市計画・野球に携わる立場から、スポーツとまちづくりの連携についてご紹介を頂きます。

本号の特集においても、寄稿頂いた記事やインタビューが掲載されておりますので、こちらもぜひご覧ください。

皆様のお越しをお待ち申し上げるとともに、広報委員会では今後も皆様が参加したくなる、勉強になる有意義な講演会の実施を計画していきます。

最後に、本誌にご寄稿を頂きました皆様へ感謝を申し上げます。ご多用のところ誠にありがとうございました。

(令和6年9月 佐藤 正隆 記)

---

### JCCA TOHOKU Vol.69

発行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部  
〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11  
アーク仙台ビル  
TEL 022-263-6820

編集 広報委員長 菊 池 透  
副委員長 上 野 圭 祐 副委員長 菊 田 博 己  
広報委員 大 友 正 樹 広報委員 相 澤 達 也  
〃 大 場 秀 行 〃 樋 口 章 大  
〃 長 谷 川 悟 〃 遠 藤 敦  
〃 安 井 栄 晃 〃 海 藤 剛  
〃 海 老 名 俊 之 〃 遠 藤 康 郎  
〃 佐 藤 正 隆 〃 畑 山 満

事務局 淀 川 政 晴・小 川 みゆき  
印刷 ハリウ コミュニケーションズ株式会社  
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12  
TEL 022-288-5011





.....明日への風、東北から.....

【建コン東北支部 サイトアドレス】

<https://jcca-tohoku.jp>

建コン 東北

検索



#### ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。